

令和2年度 広域連携DMOとしての北海道インバウンド戦略立案事業  
プラットフォーム整備事業

**観光客の位置情報を活用した分析レポート**  
**— 国内観光客 —**

2021年03月05日

北海道観光振興機構

## 本レポート作成の目的

観光戦略の立案にあたっては、旅行者の観光実態を把握し、旅行者の好みや興味に合わせた観光コンテンツの開発や受入環境整備、プロモーション等の施策の検討を行うことが重要です。北海道観光活性化に資する情報として、本レポートでは携帯電話の位置情報データを活用した北海道における観光客の分析結果を、道内自治体・DMO・観光関係団体等の一助となるようまとめました。位置情報データを用いることで、道内全域の観光の実態を、調査方法や調査地点、調査精度に依存することなく、統一的な指標で比較、分析することが可能です。

特に国内観光客については、性・年代別、居住地別で属性を把握し、民営化した道内7空港を軸に北海道を7つのエリアに分け、道内各エリアへの訪問者の傾向を分析、エリアごとの特徴を整理し、具体的な打ち手の検討を行いました。

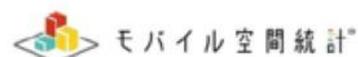
## レポートの構成

本レポートは以下の構成でまとめられています。

<u>道内全域の観光実態</u> .....	P.5
道内全域の国内観光客の特徴を整理しました。	
<u>エリア別の観光実態</u> .....	P.11
民営化した道内7空港を軸にエリアを分類し、エリアごとの観光客の特徴を整理しました。	
エリア区分：上川・留萌エリア、釧路・根室エリア、オホーツクエリア、空知・石狩・胆振・日高・後志エリア、十勝エリア、宗谷エリア、渡島・檜山エリア	
<u>エリア間の比較</u> .....	P.40
前章でエリア別に整理したデータを集約し、エリアごとの違いを整理しました。	
<u>打ち手の検討</u> .....	P.48
データの分析結果からエリアごとに打ち手を検討しました。	

本分析レポートでは、ドコモ・インサイトマーケティング社が提供するモバイル空間統計を用いた。  
なお、市区町村別の滞在人数は日ごとに1人とカウントしている。

モバイル空間統計とは



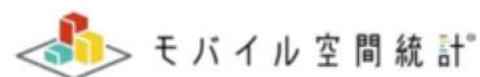
“いつ” “どんな人が” “どこから” “どこに”  
動いたかが分かる、新たな人口統計です。



項目	内容
対象地域	北海道
対象者	国内観光客
データ	市区町村別の滞在人数
取得期間	2019年1月～2019年12月（1ヶ月ごと）
対象時間	昼間帯・夜間帯・区分なし（1日）
属性	日本人：総数、性別・年代別、居住地市区町村別

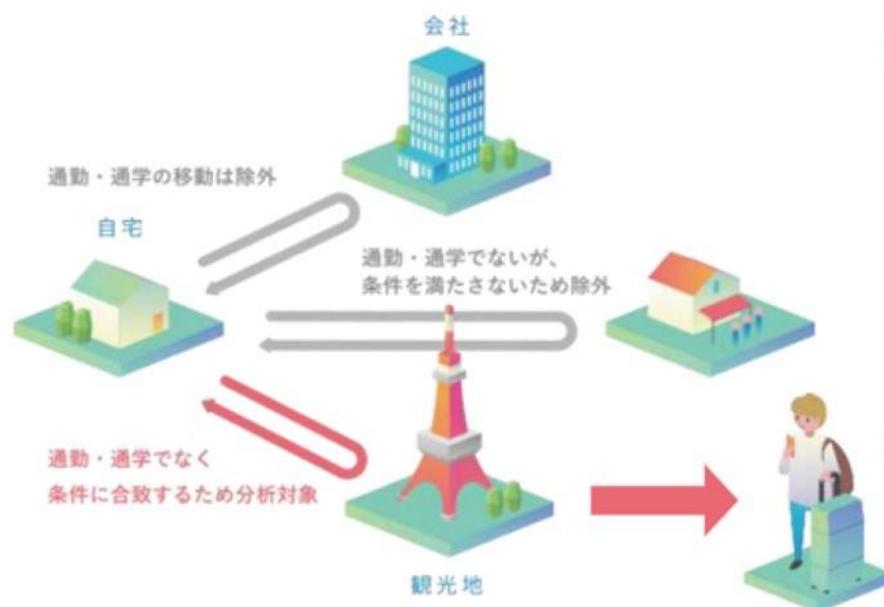
本分析レポートでは、国内観光客の定義を通勤・通学でない移動のうち、片道移動距離80kmもしくは8時間以上、近隣居住者をの除く移動を除いたものとしている。なお、遠方からのビジネス旅行客も含まれている可能性がある点に留意されたい。

### 国内観光客の定義



日々の移動情報を分析した上で、

観光が想定される移動のみを観光客と見なし、統計処理します。



#### Step1

- 通勤・通学でない移動のうち、
- ・片道移動距離80km以上  
もしくは、8時間以上
  - ・近隣居住者を除く
- の移動を観光客として抽出

※ 観光庁が規定する「旅行の定義」を参考に設定

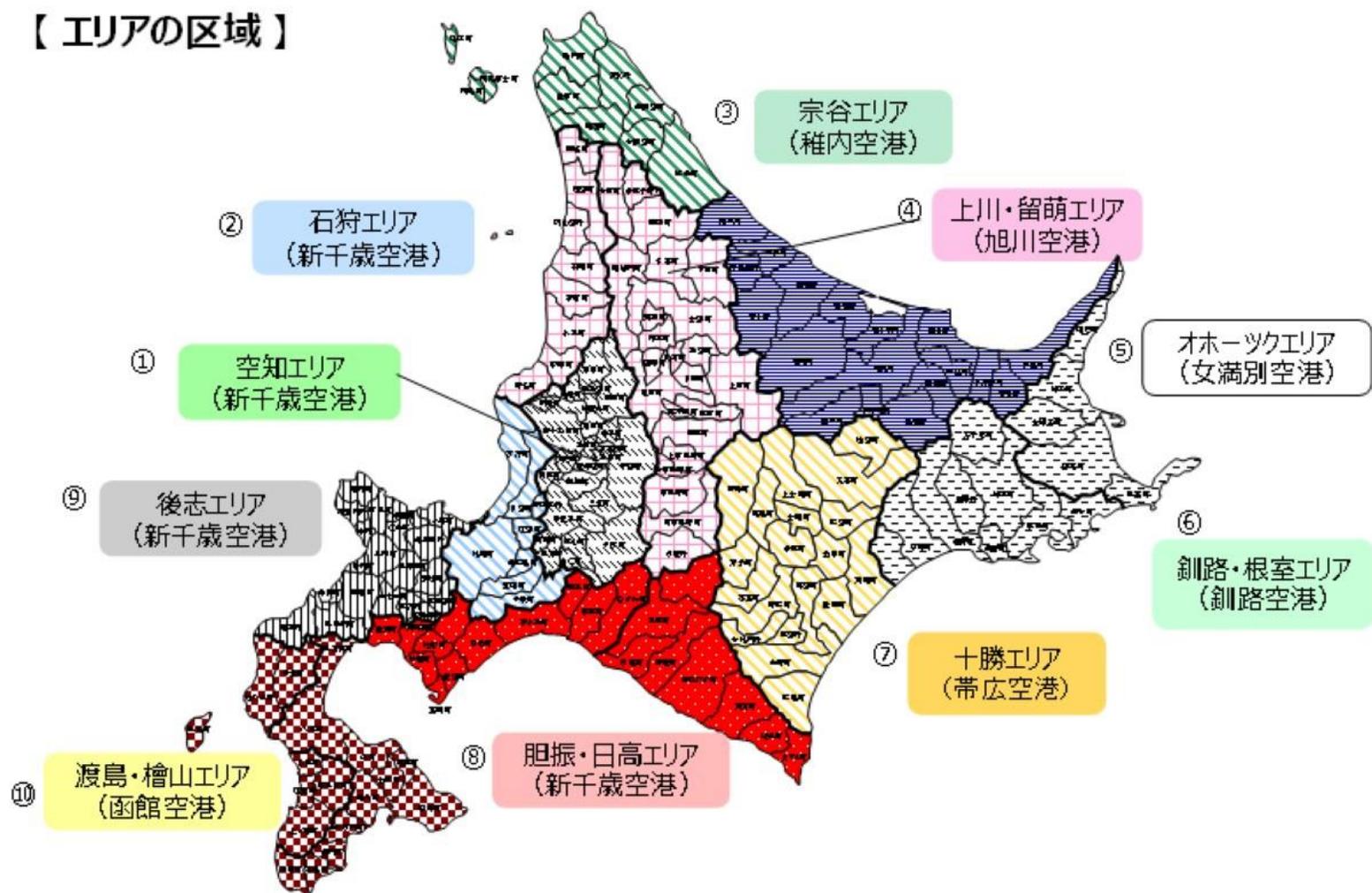
#### Step2

観光客のみを対象に統計処理

旅行の定義：<http://www.mlit.go.jp/common/001118132.pdf>

北海道観光振興機構が令和3年度に実施を予定している「広域観光周遊促進事業」をベースに、道内を10のエリアに設定した。尚、エリア別の分析については、この10エリアを民営化した道内7空港を軸に7つのエリアに整理し実施している。

### 【エリアの区域】

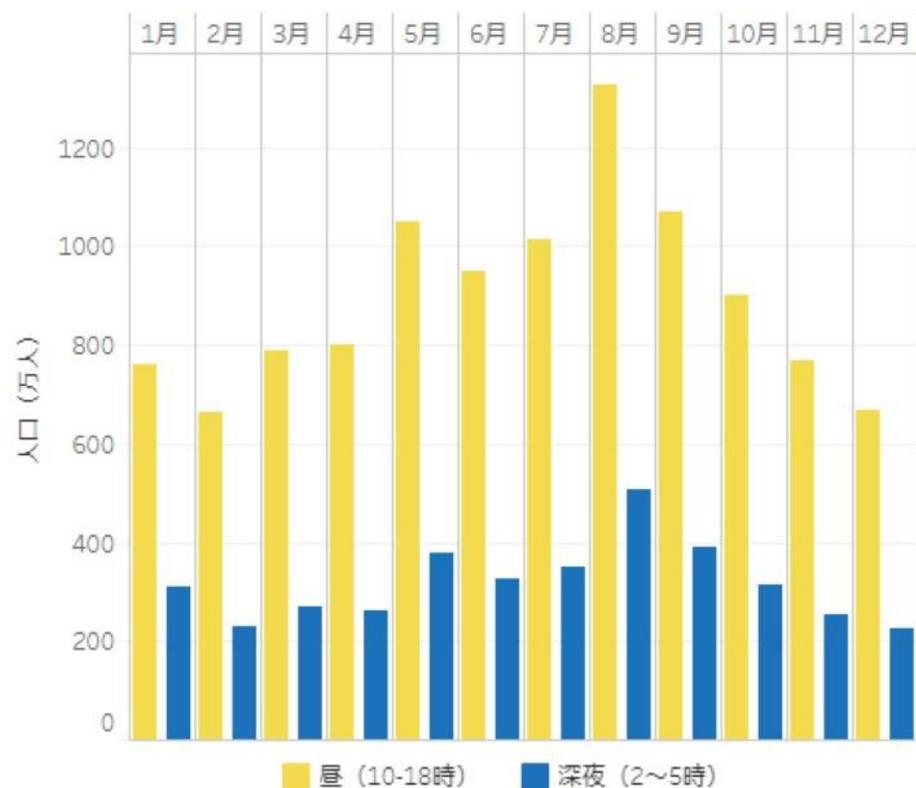


## 道内全域の観光実態

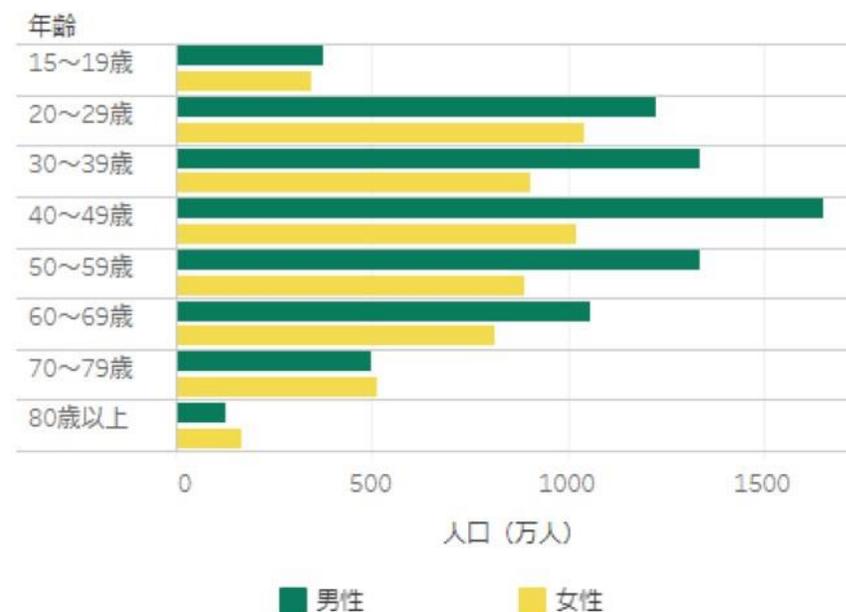
## 道内全域の観光人口（月別・性年代別）

- ・国内観光客の月別来訪者数は年間延べ134,260,783人であり、8月が最も多く、12月が最も少なかった。
- ・性年代別では、70歳未満の年代で男性が女性より多い。また、男性は40～49歳、女性は20～29歳が最も多くなっている。

### ●国内観光客の月別来訪者数



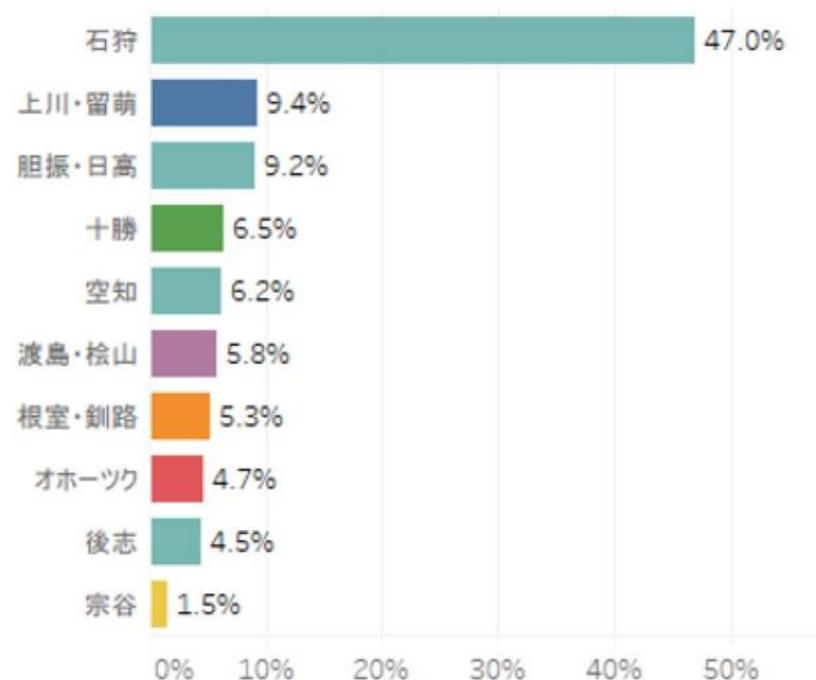
### ●国内観光客の性年代別構成



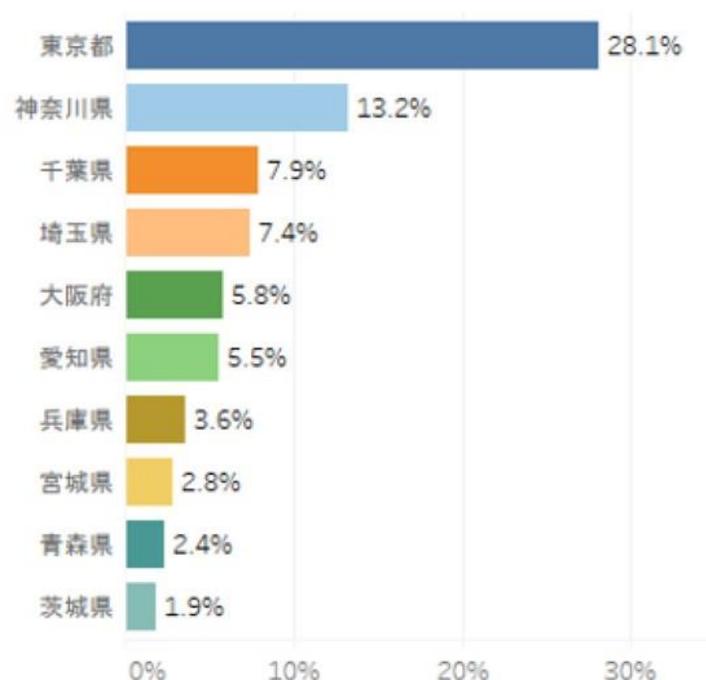
## 道内全域の観光人口（居住地別）

- ・ 道内観光客の居住地は、石狩が47.0%を占め最も多く、次いで上川・留萌が9.4%、胆振・日高が9.2%と続く。
- ・ 道外観光客の居住地は、東京都が最も多く28.1%、次いで神奈川県13.2%、千葉県7.9%、埼玉県7.4%と1都3県で56.6%と半数以上を占める。

### ● 道内観光客の居住地



### ● 道外観光客の居住地

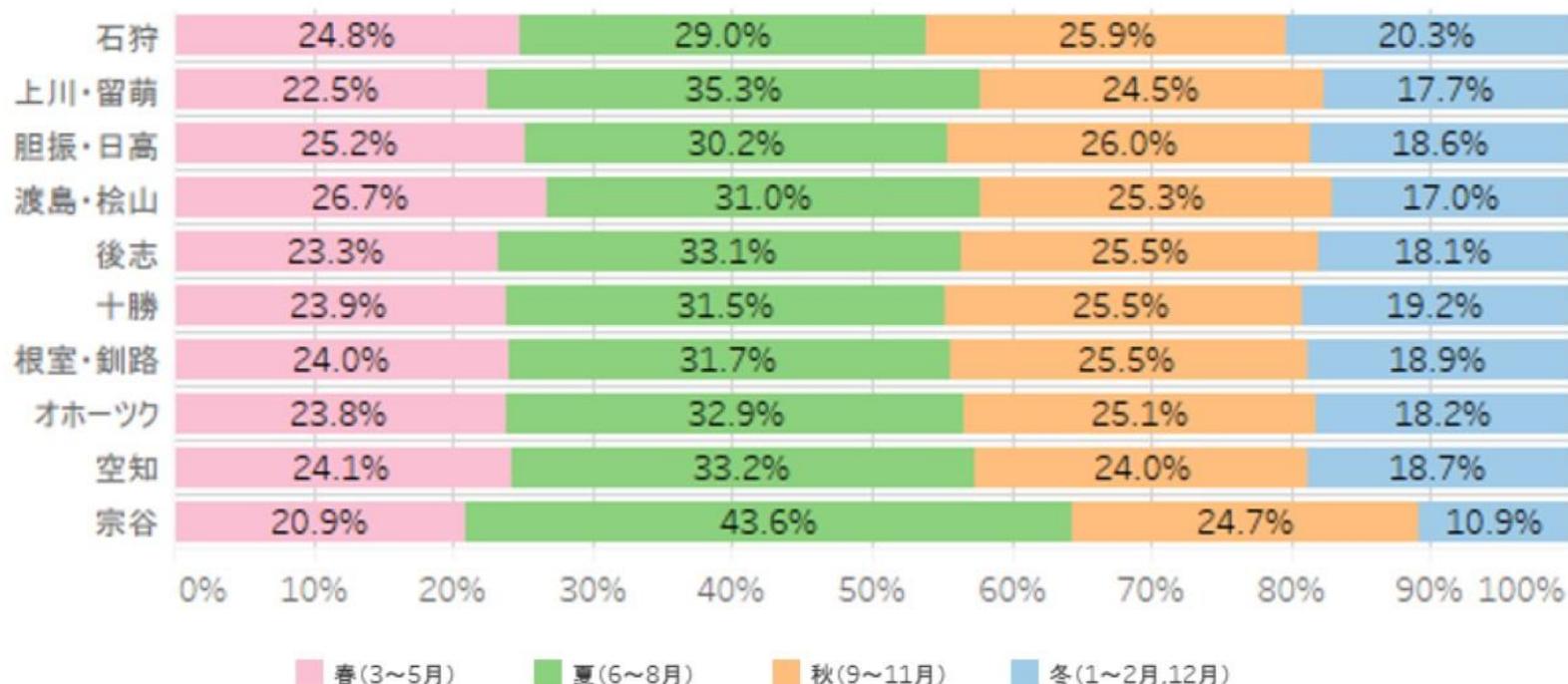


※上位10都府県

## エリア区別の季節別観光人口

- ・エリア別の季節別観光人口を見ると、宗谷エリアを除くどのエリアも同程度の季節別の割合となっており、夏が最も多く30～35%程度となっている。また、次いで春と秋が同程度、冬が最も少なくなっている。
- ・宗谷エリアは他のエリアと異なり、冬が10.9%と最も割合が少なくなっており、夏の来訪割合が他のエリアよりも高い傾向にある。

### ●エリア区別 季節別割合 (道内+道外)



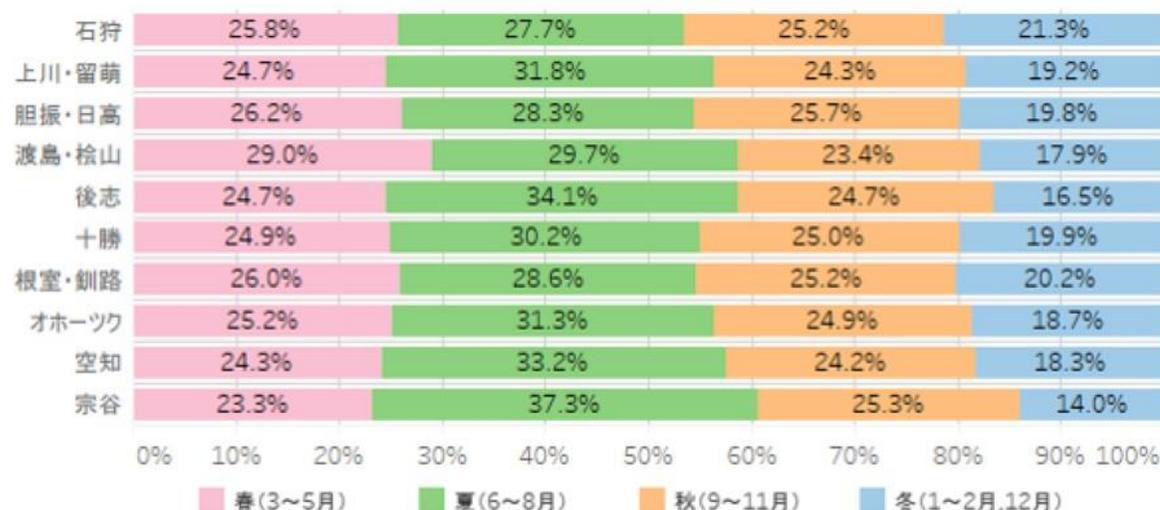
## エリア区分別の季節別観光人口（道内観光客・道外観光客別）

・道内観光客、道外観光客別に季節別の来訪者数を比較すると、道外観光客の方が季節別の訪問割合の差が顕著である。

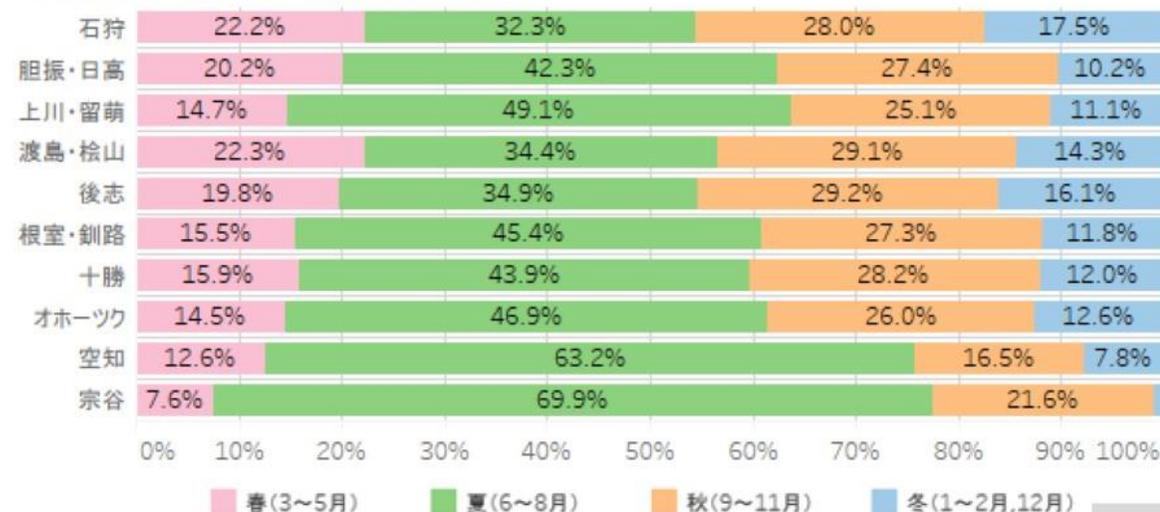
・道外観光客は、空知や宗谷エリアは60%以上が夏に来訪している他、上川・留萌、根室・釧路、十勝、オホーツクなども夏の来訪が他の季節と比較して最も多くなっている。

・一方、道外観光客の冬の来訪はどのエリアでも少なく、特に宗谷エリアへの冬の訪問は際立って少ない。

### ●エリア区分別 季節別割合（道内）



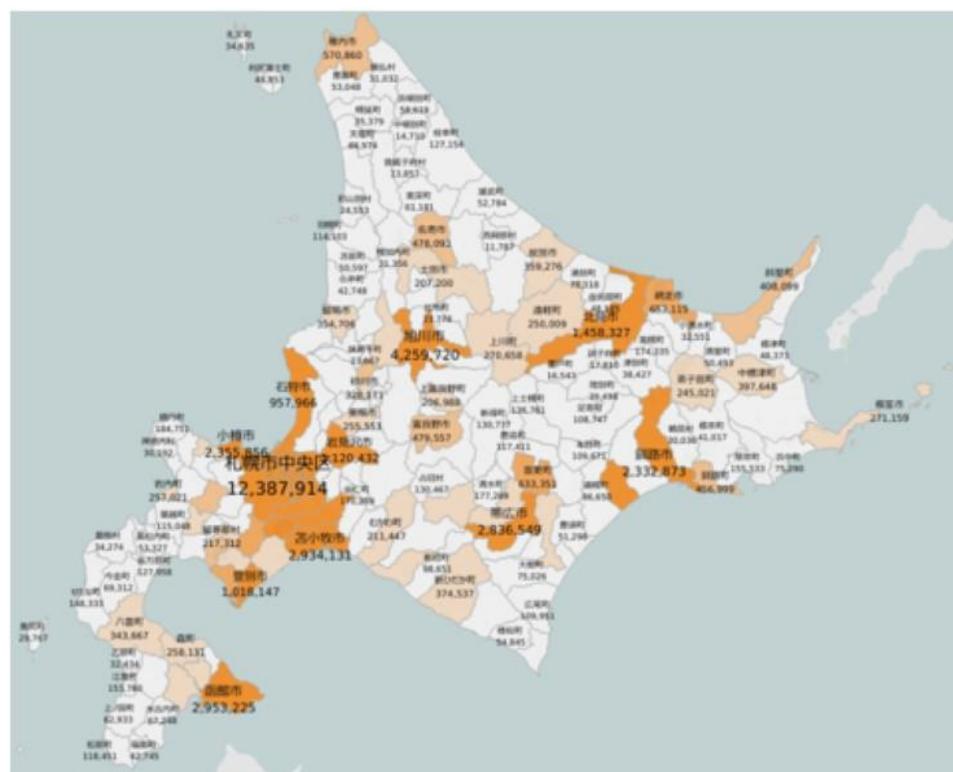
### ●エリア区分別 季節別割合（道外）



## 観光客の訪問先（道内観光客・道外観光客別）

- ・道内観光客は北海道全域で観光している様子が見てとれる一方で、道外観光客は限られたエリアに集中している様子や、道北へはあまり足を延ばしていない様子が伺える。

### ●道内観光客の訪問先



### ●道外観光客の訪問先



※居住地は市区町村単位で取得しており匿名化の観点から一定サンプル数未満のデータは除外しているため、訪問者なしとなることがある

## エリア別の観光実態

エリア区分：

- 上川・留萌エリア（旭川空港エリア）
- 釧路・根室エリア（釧路空港エリア）
- オホーツクエリア（女満別空港エリア）
- 空知・石狩・胆振・日高・後志エリア（新千歳空港エリア）
- 十勝エリア（帯広空港エリア）
- 宗谷エリア（稚内空港エリア）
- 渡島・檜山エリア（函館空港エリア）

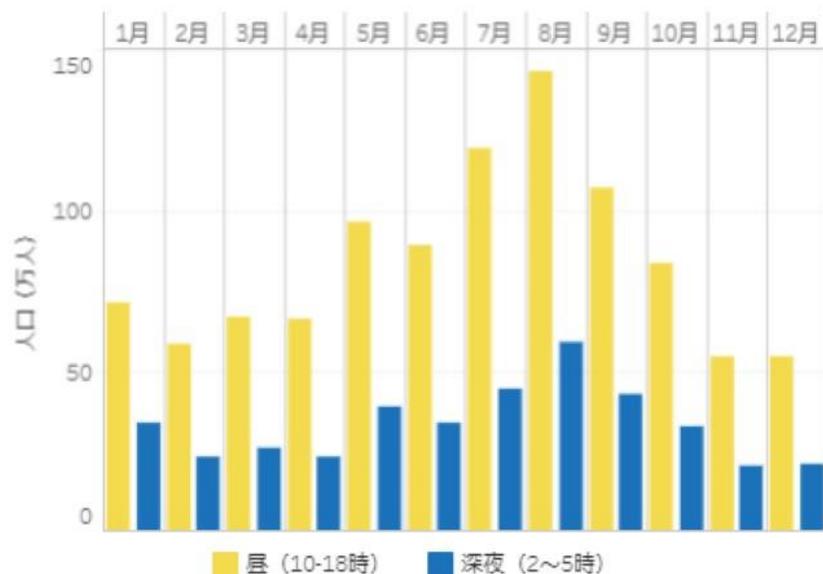
上川・留萌エリア（旭川空港エリア）

## 上川・留萌エリアの観光人口

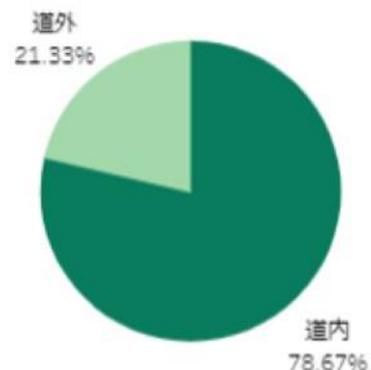
- ・8月の訪問者が最も多く、次いで、7月、9月と前後の月でも多くなっている。
- ・女性よりも男性が多く、男性は40-49歳が最も多い。
- ・女性は男性と同様に40-49歳が最も多いが、20-69歳では年代別の差がそれほどない。

### ●国内観光客の月別観光人口

年間延べ観光人口：12,452,573人



### ●道内・道外観光客の比率



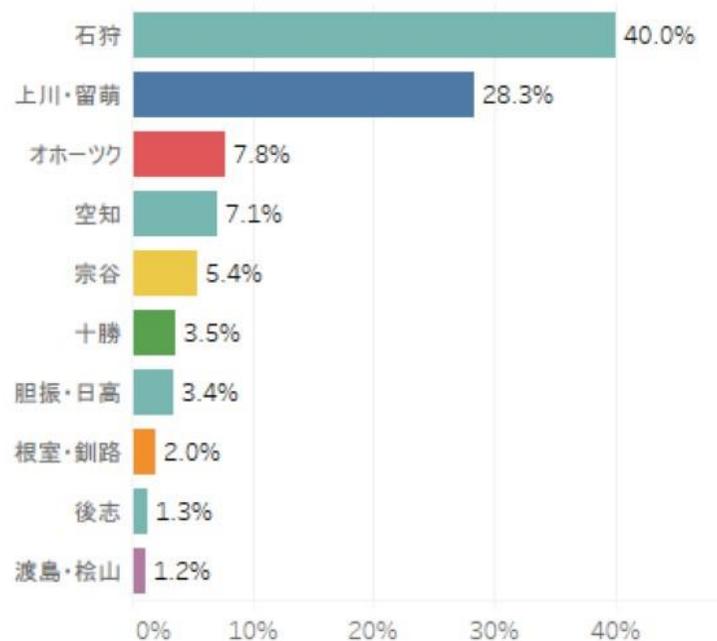
### ●国内観光客の性年代別構成



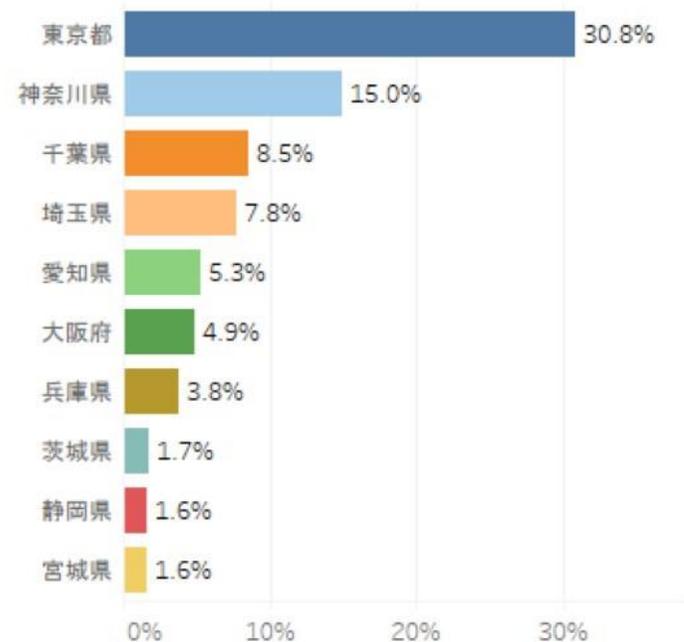
## 上川・留萌エリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は石狩エリアが最も多く40.0%を占め、次いで上川・留萌28.3%、オホーツク7.8%、空知7.1%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く30.8%、次いで神奈川県15.0%、千葉県8.5%、埼玉県7.8%と1都3県で62.1%を占める。また、1都3県に次いで愛知県5.3%、大阪府4.9%となっている。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地



※上位10都府県



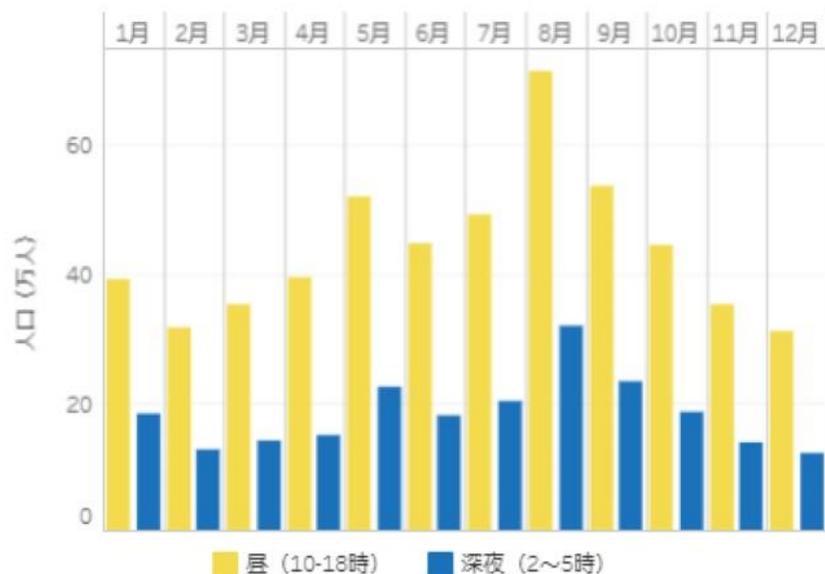
釧路・根室エリア（釧路空港エリア）

## 釧路・根室エリアの観光人口

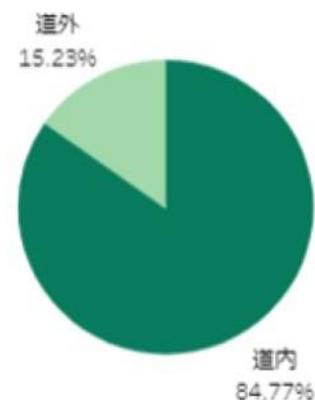
- ・ 8月が最も多く、次いで9月、5月の訪問が多い。
- ・ 道内観光客の割合は84.77%程度である。
- ・ オホーツクエリアの月別、道内外の比率、性年代別の傾向が似ている。

### ●国内観光客の月別観光人口

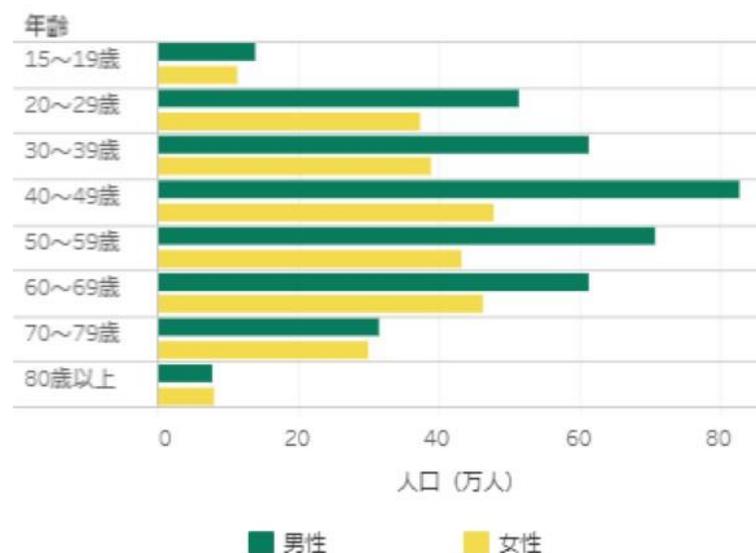
年間延べ観光人口：6,537,238人



### ●道内・道外観光客の比率



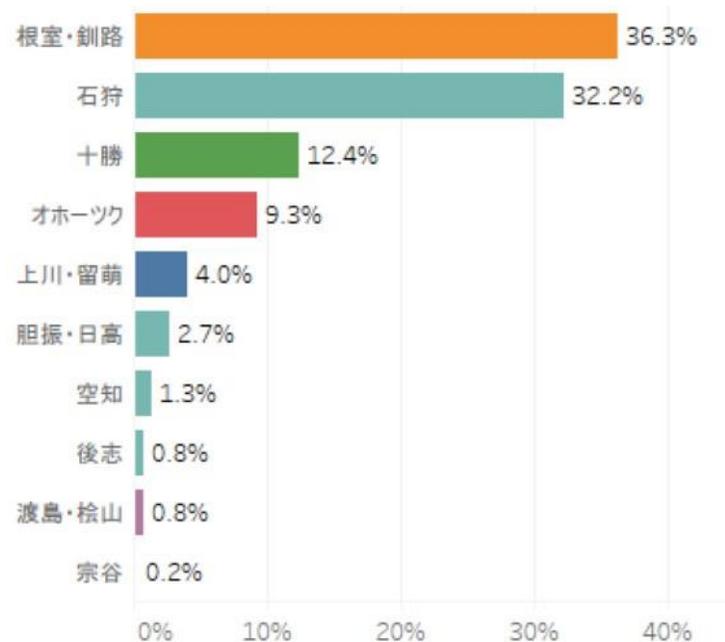
### ●国内観光客の性年代別構成



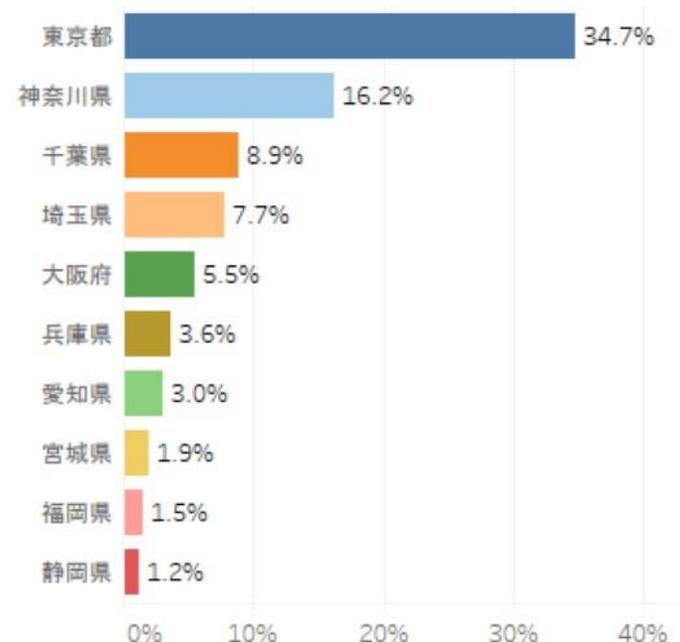
## 釧路・根室エリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は釧路・根室エリアが最も多く36.3%を占め、次いで石狩32.2%、十勝12.4%、オホーツク9.3%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く34.7%、次いで神奈川県16.2%、千葉県8.9%、埼玉県7.7%と1都3県で67.5%と3分の2以上を占める。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地

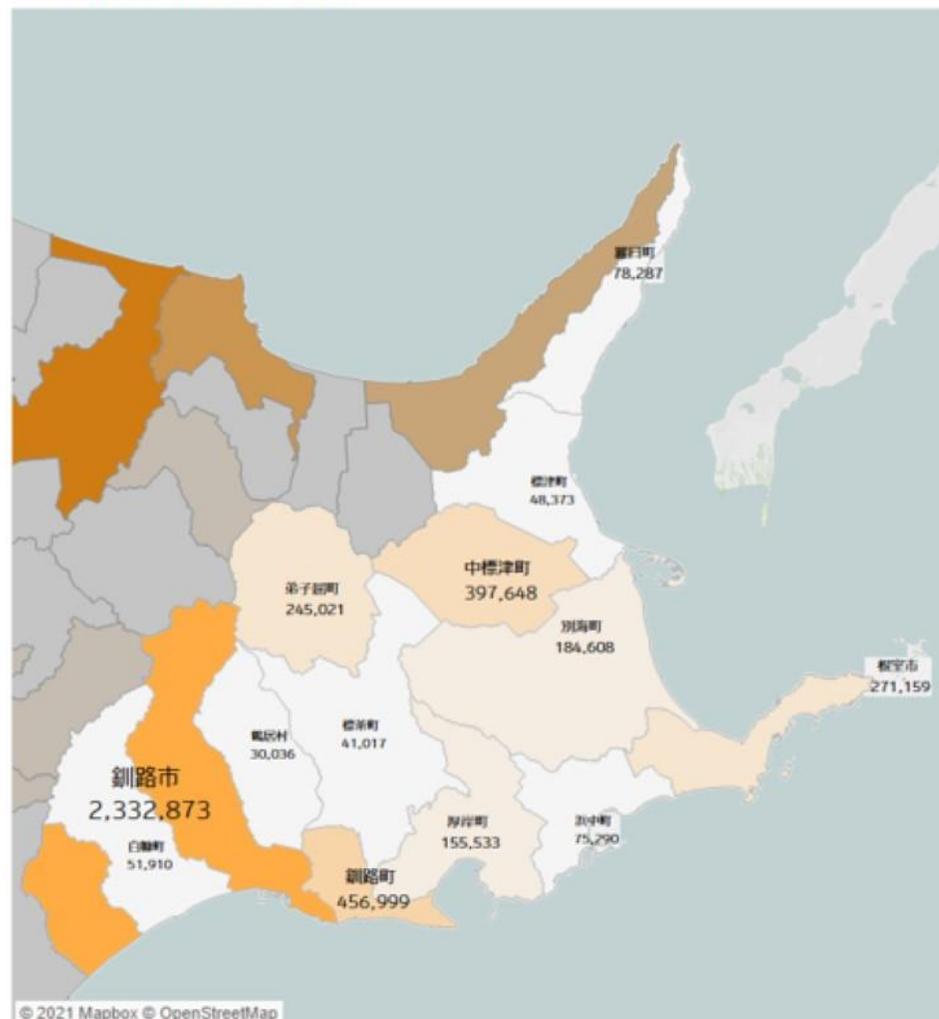


※上位10都府県

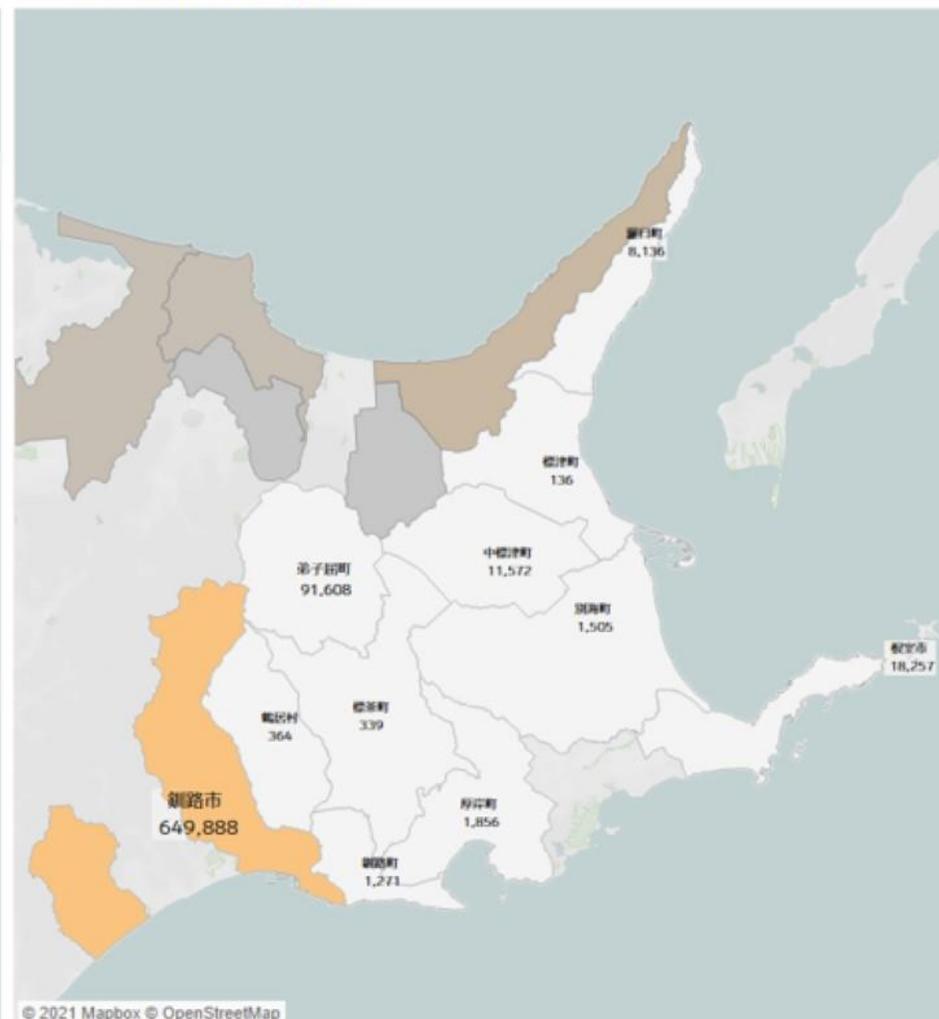
## 釧路・根室エリアの訪問先（居住地別）

- ・道内観光客の訪問先は釧路市が最も多く、釧路町、中標津、根室が次いで多くなっている。
- ・道外観光客の訪問先は、釧路市に次いで多いのは弟子屈であるが、釧路市以外の訪問者は少ない。

### ●道内観光客の訪問先



### ●道外観光客の訪問先



※居住地は市区町村単位で取得しており匿名化の観点から一定サンプル数未満のデータは除外しているため、訪問者なしとなることがある

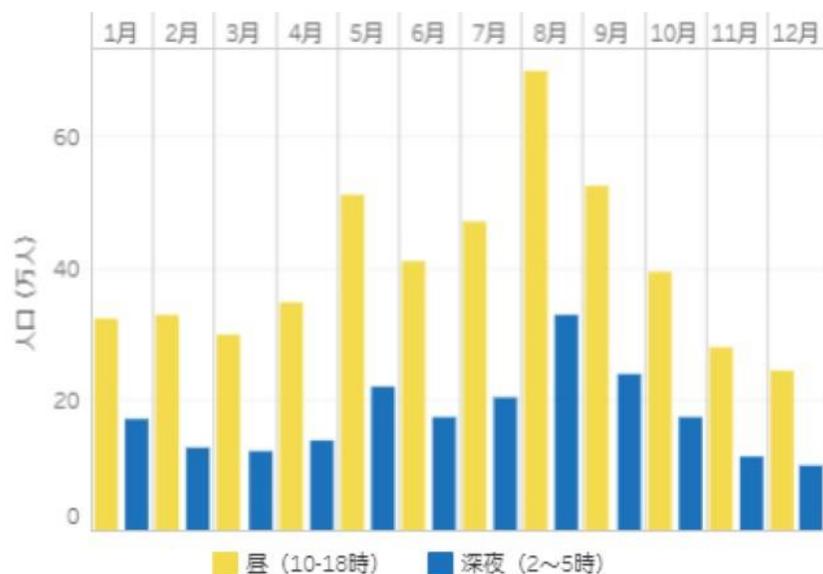
オホーツクエリア（女満別空港エリア）

## オホーツクエリアの観光人口

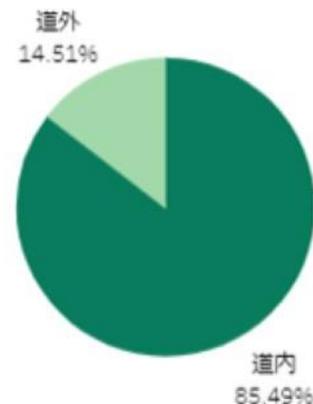
- ・ 8月が最も多く、次いで9月、5月の訪問が多い。
- ・ 道内観光客の割合は85.49%程度である。
- ・ 釧路・根室エリアの月別、道内外の比率、性年代別の傾向が似ている。

### ●国内観光客の月別観光人口

年間延べ観光人口：5,987,268人



### ●道内・道外観光客の比率



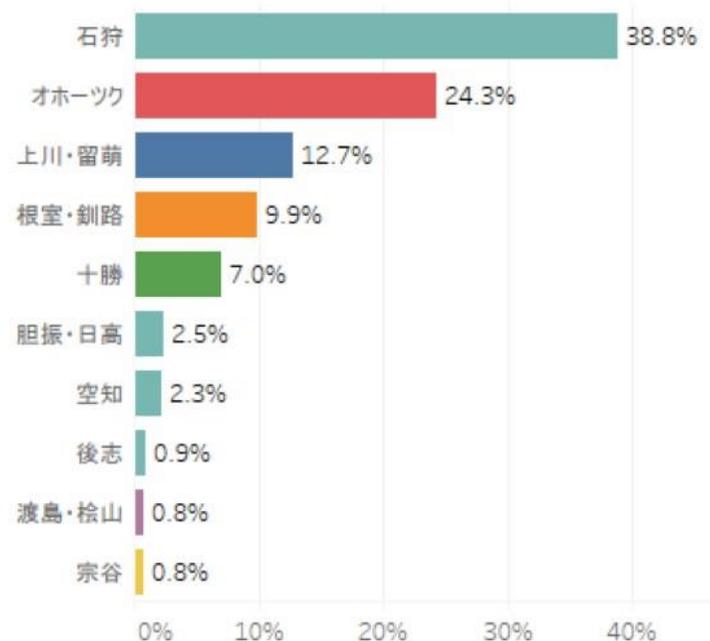
### ●国内観光客の性年代別構成



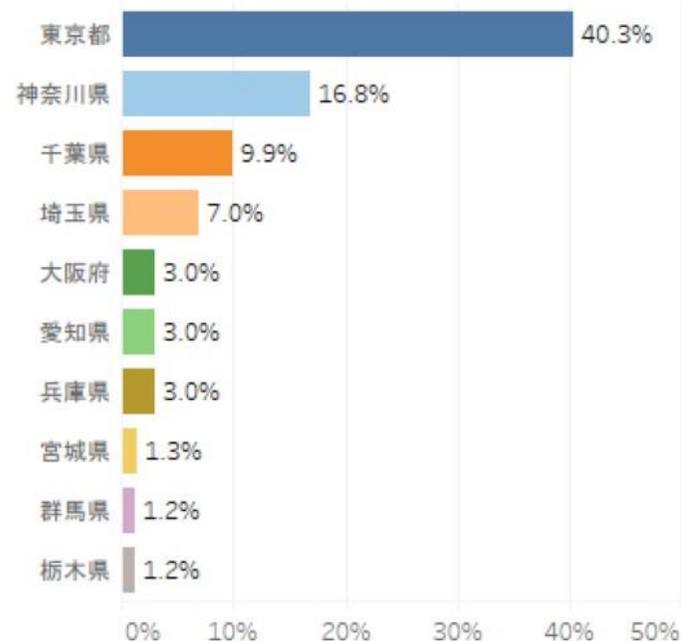
## オホーツクエリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は石狩エリアが38.8%と最も多く、次いで、オホーツク24.3%、上川・留萌12.7%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く40.3%、次いで神奈川県16.8%、千葉県9.9%、埼玉県7.0%と1都3県で74%と4分の3以上を占め、1都3県以外からの訪問者は少ない。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地



※上位10都府県



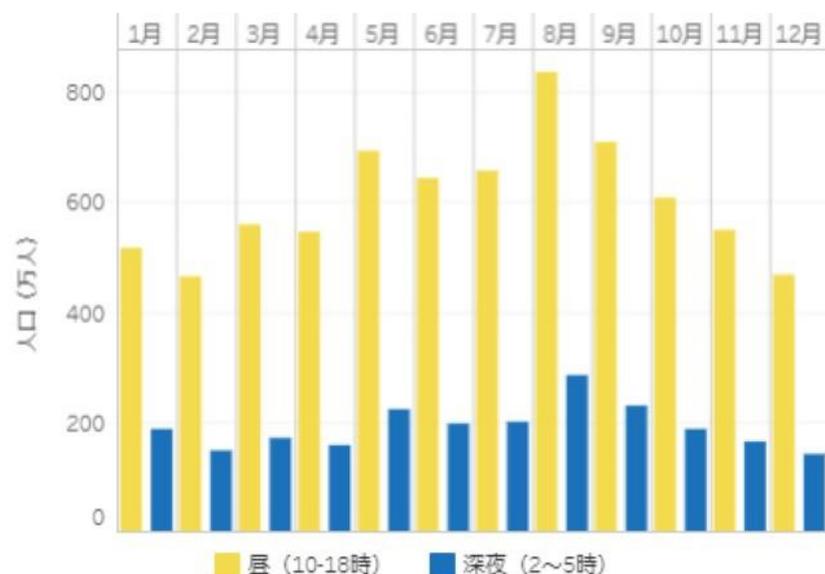
空知・石狩・胆振・日高・後志エリア（新千歳空港エリア）

## 空知・石狩・胆振・日高・後志エリアの観光人口

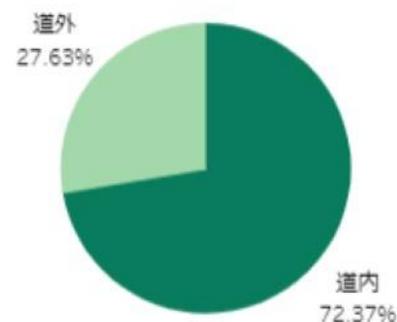
- ・他のエリアに比べて月別の変動が少ない傾向にある。
- ・道外の割合が函館エリアの34.94%に次いで、2番目に高い27.63%となっている。
- ・20-39歳の年齢が若い年代が他のエリアと比較して高い。

### ●国内観光客の月別観光人口

年間延べ観光人口：90,597,784人



### ●道内・道外観光客の比率



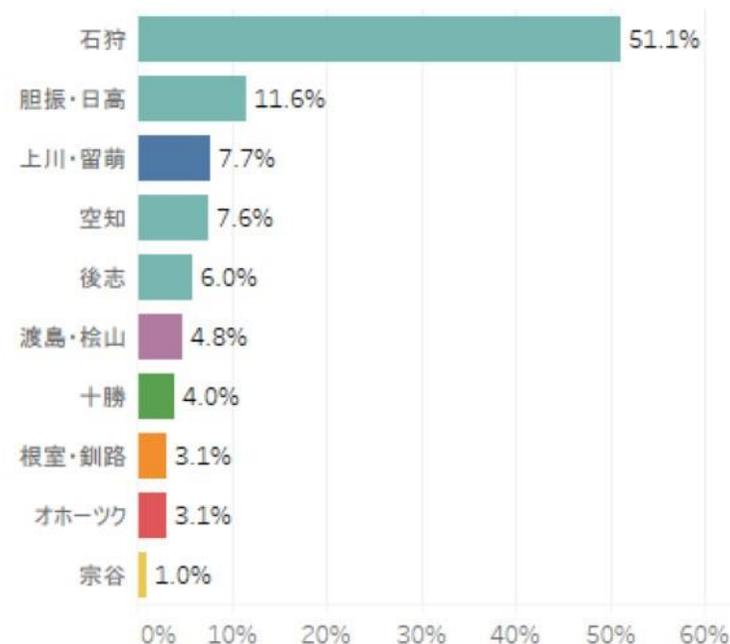
### ●国内観光客の性年代別構成



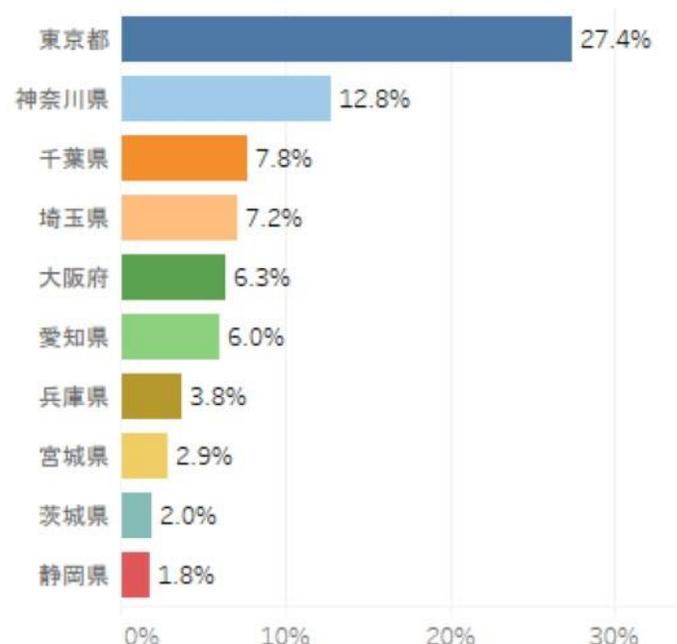
## 空知・石狩・胆振・日高・後志エリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は石狩エリアが51.1%と最も多く半数以上を占める、次いで、日高11.6%、上川・留萌7.7%、空知7.6%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く27.4%となっているが、他のエリアと比較して10p以上低い、次いで神奈川県12.8%、千葉県7.6%、埼玉県7.2%と1都3県で55%と約半数を占める。また大阪から6.3%、愛知から6.0%など都市からが次ぐ。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地



※上位10都府県



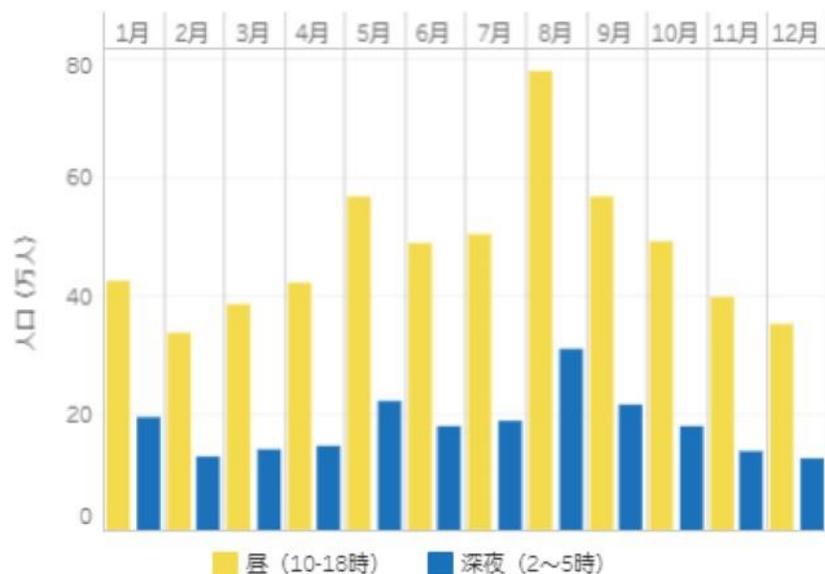
十勝エリア（帯広空港エリア）

## 十勝エリアの観光人口

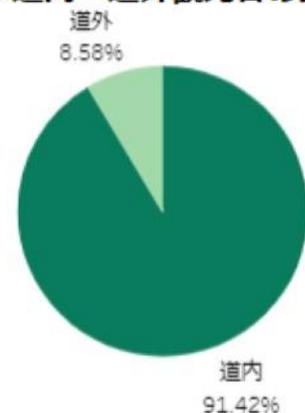
- ・他のエリアと比較して最も道内観光客の割合が高く、91.42%となっている。
- ・釧路や女満別のエリアの傾向に似て、男性に対する女性の訪問割合が少ない。

### ●国内観光客の月別観光人口

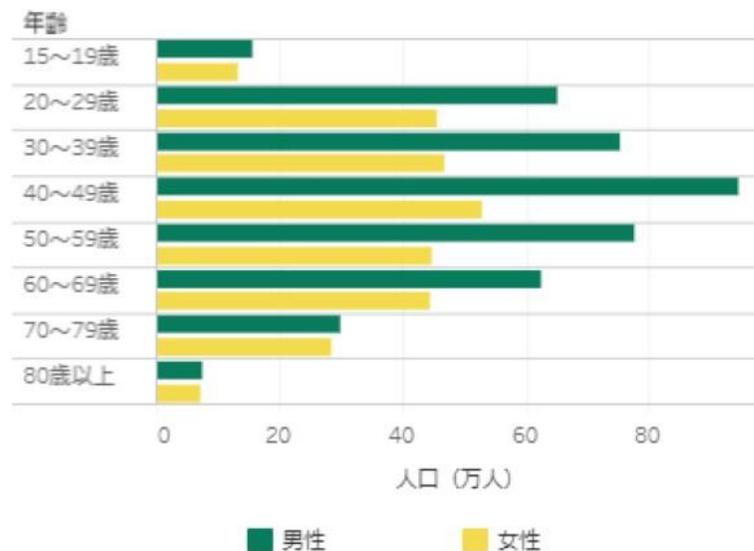
年間延べ観光人口：7,258,077人



### ●道内・道外観光客の比率



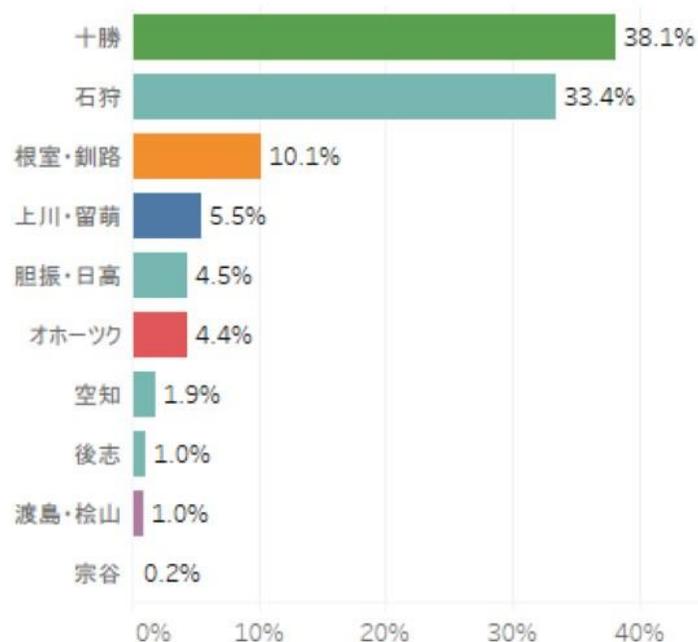
### ●国内観光客の性年代別構成



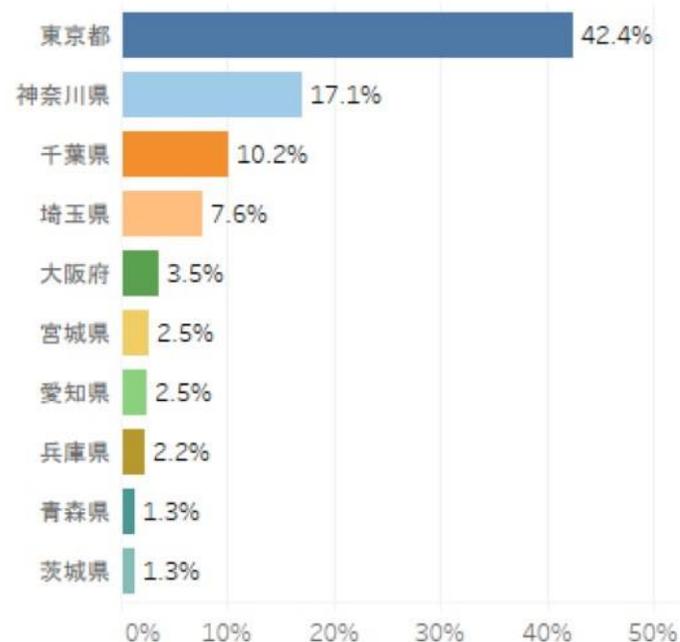
## 十勝エリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は十勝エリアが38.1%と最も多く、次いで、石狩33.4%、根室・釧路10.1%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く42.4%、次いで神奈川県17.1%、千葉県10.2%、埼玉県7.6%と1都3県で77.3%と4分の3以上を占め、1都3県以外からの訪問者は少ない。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地

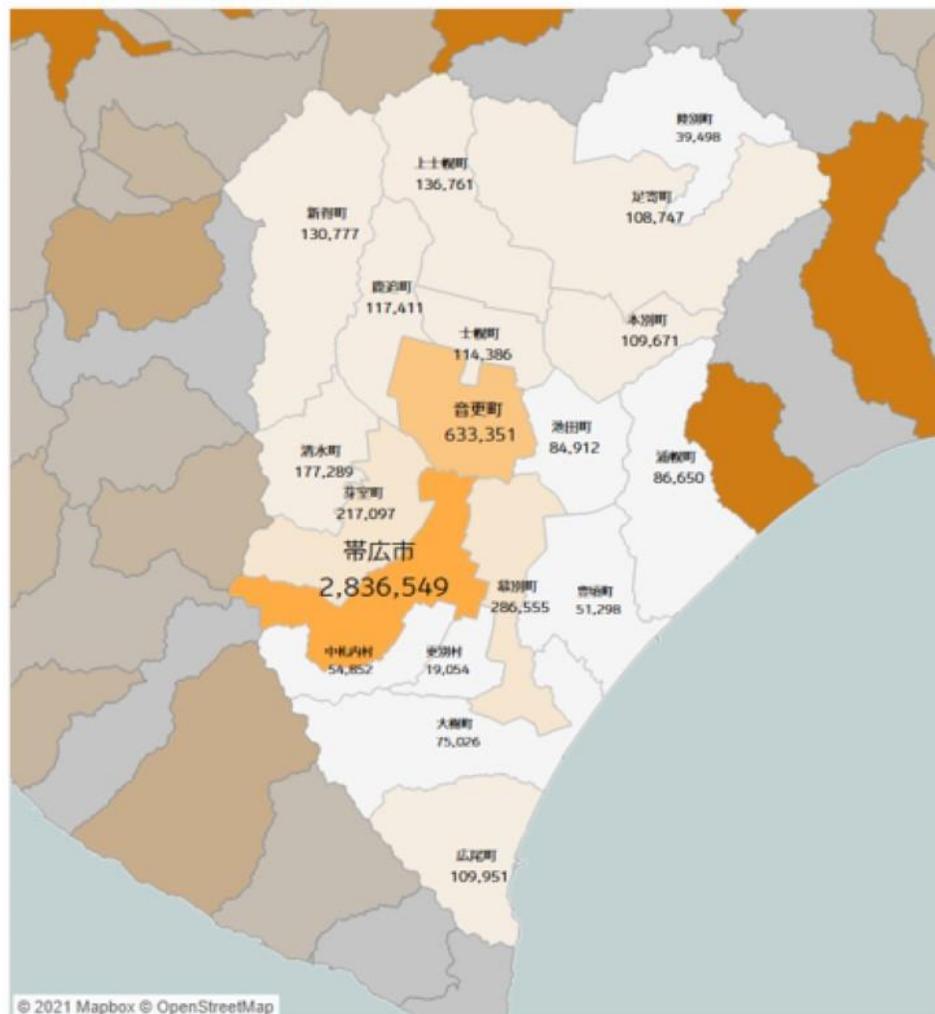


※上位10都府県

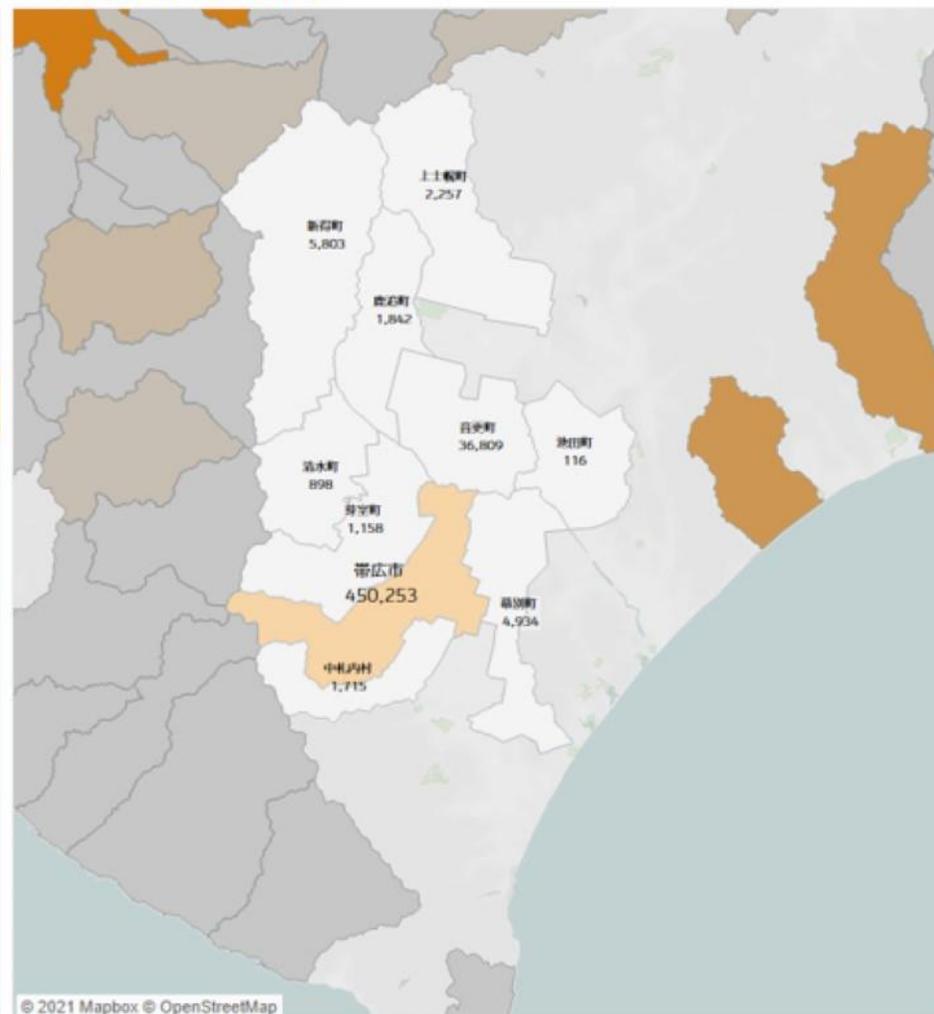
## 十勝エリアの訪問先（居住地別）

- ・道内観光客の訪問先は帯広が最も多く、音更、幕別、芽室の順に多い。
- ・道外観光客の訪問先は帯広が最も多く、次いで音更が多いが帯広以外の訪問者は少ない。

### ●道内観光客の訪問先



### ●道外観光客の訪問先



※居住地は市区町村単位で取得しており匿名化の観点から一定サンプル数未満のデータは除外しているため、訪問者なしとなることがある

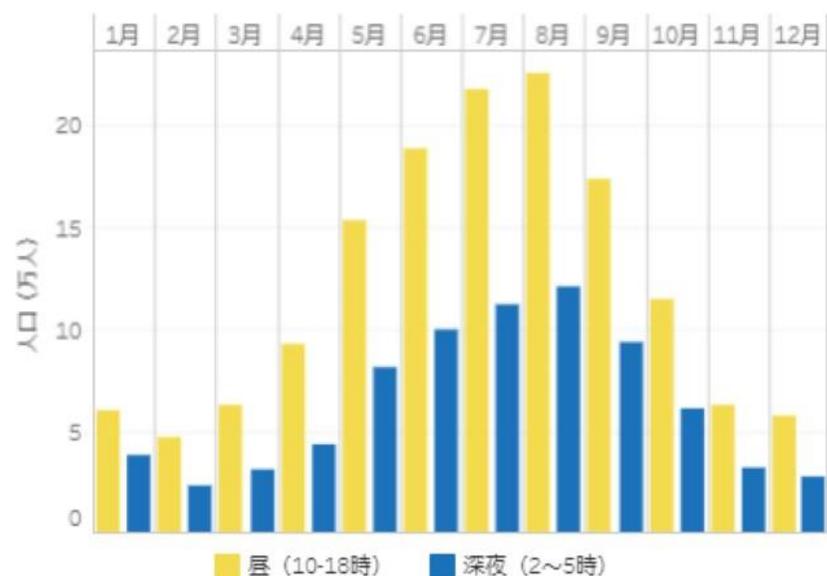
宗谷エリア（稚内空港エリア）

## 宗谷エリアの観光人口

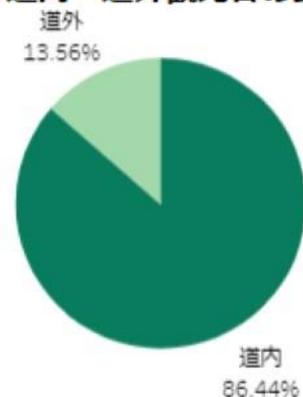
- ・他のエリアに比較して、6,7,8,月を中心に来訪されており、次いで5,9月と一定の時期に偏りが見られる。
- ・男女別の割合では20-59歳までの女性の来訪が男性の半分以下である。女性は60-69歳が最も多く、若い年代は少ない。

### ●国内観光客の月別観光人口

年間延べ観光人口：1,933,846人



### ●道内・道外観光客の比率



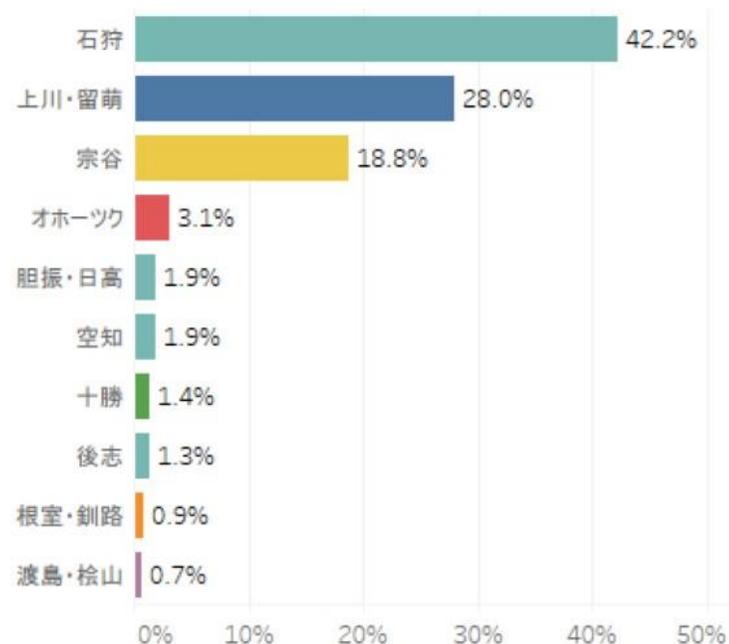
### ●国内観光客の性年代別構成



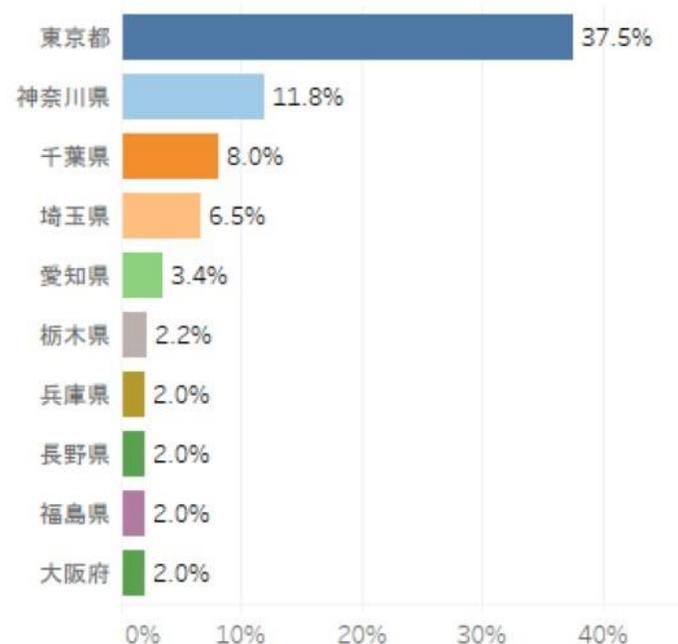
## 宗谷エリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は石狩エリアからの訪問者が42.2%と最も多く、次いで、上川・留萌28.0%、宗谷18.8%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く37.5%、次いで神奈川県11.8%、千葉8.0%、埼玉6.5%と1都3県で63.8%と6割以上を占め、1都3県以外からの訪問者は少ない。次いで愛知県、栃木県と続くが、大阪からの来訪者の割合が他のエリアと比べ少ない。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地

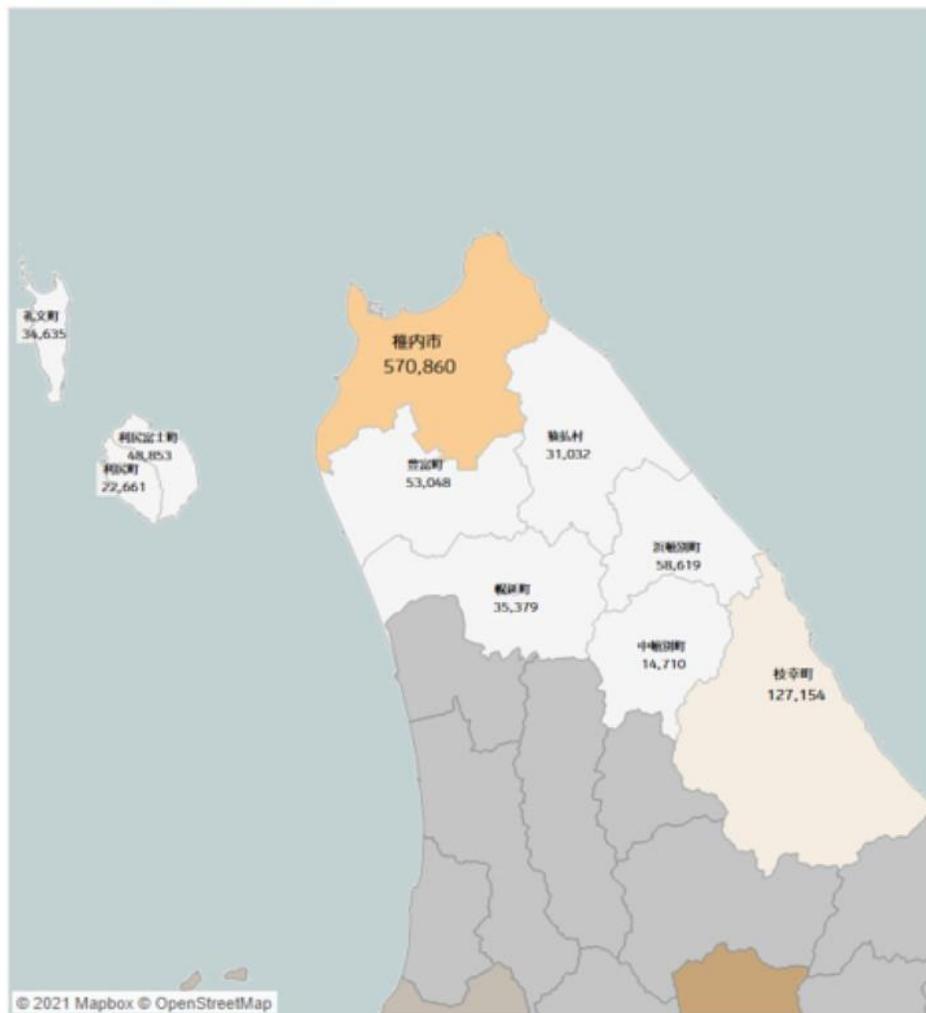


※上位10都府県

## 宗谷エリアの訪問先（居住地別）

- ・道内観光客の訪問先は稚内が最も多く、次いで枝幸が多い。
- ・道外観光客は稚内と礼文島、利尻島への訪問が見られた。

### ●道内観光客の訪問先



### ●道外観光客の訪問先



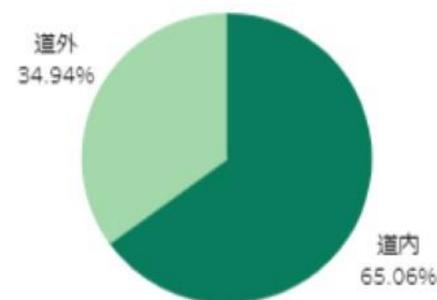
※居住地は市区町村単位で取得しており匿名化の観点から一定サンプル数未満のデータは除外しているため、訪問者なしとなることがある

渡島・檜山エリア（函館空港エリア）

## 渡島・檜山エリアの観光人口

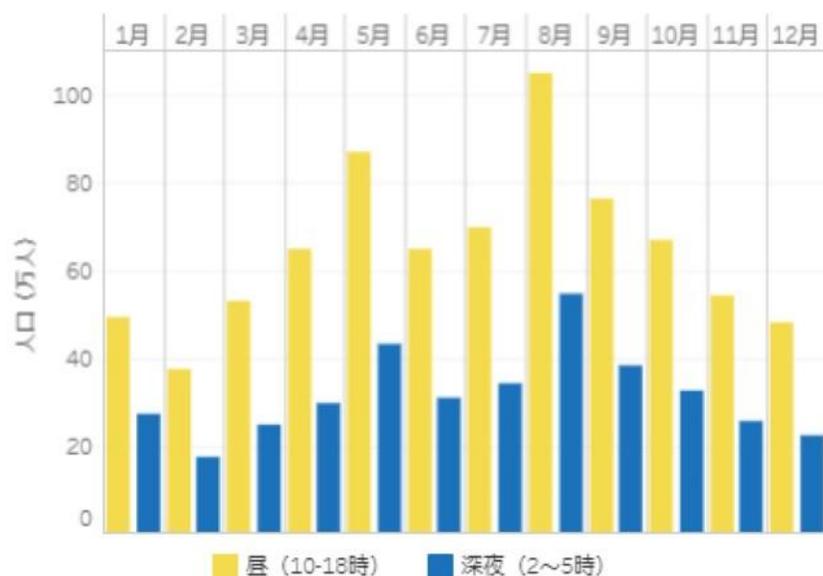
- ・他のエリアと比較して、最も道外観光客の割合が高く、34.94%となっている。
- ・男女別の差が比較的少なく、女性も多く来訪する傾向にある。
- ・8月が最も多く、次いで5月が多くなっている。

### ●道内・道外観光客の比率



### ●国内観光客の月別観光人口

年間延べ観光人口：9,493,997人



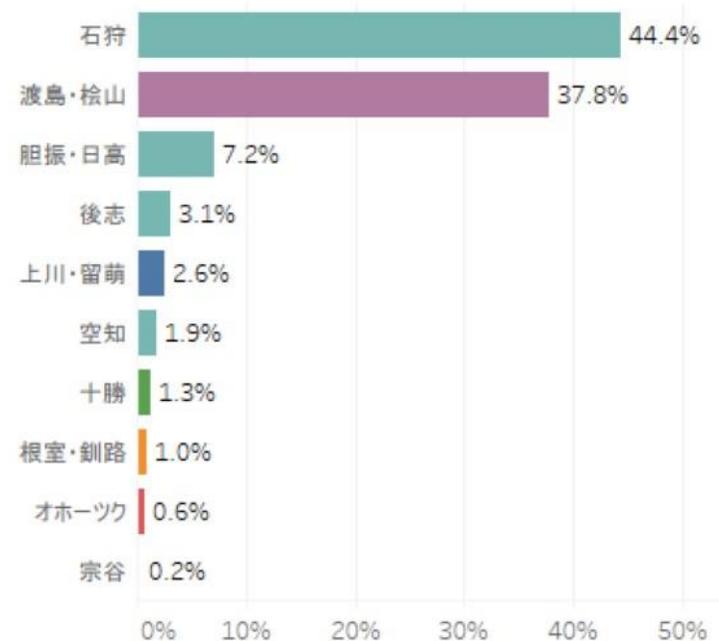
### ●国内観光客の性年代別構成



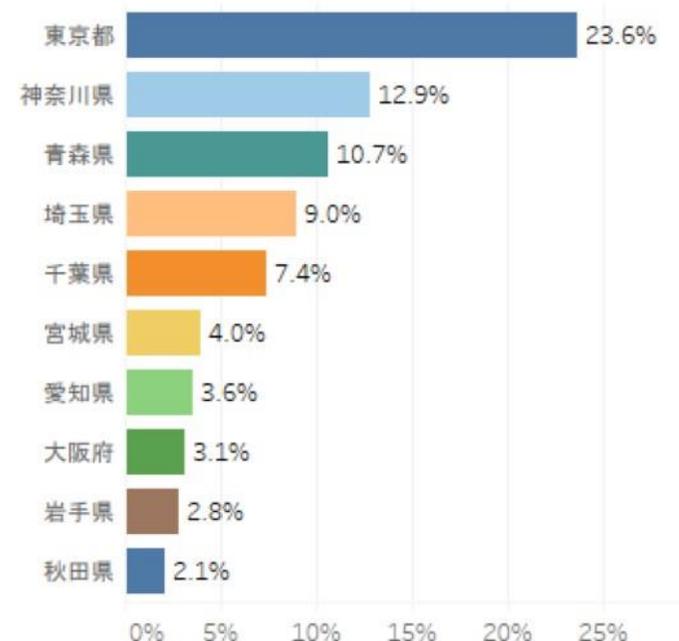
## 渡島・檜山エリアの観光人口（居住地別）

- ・道内観光客の居住地は石狩エリアからの訪問者が44.4%と最も多く、次いで、渡島・檜山37.8%、胆振・日高7.2%となっている。
- ・道外観光客の居住地は東京都が最も多く23.6%、次いで神奈川県12.9%、青森県10.7%、埼玉県9.0%、千葉県7.4%、宮城県4.0%であり、他のエリアと比較し東北の各県が上位に見られる。

### ●道内観光客の居住地



### ●道外観光客の居住地

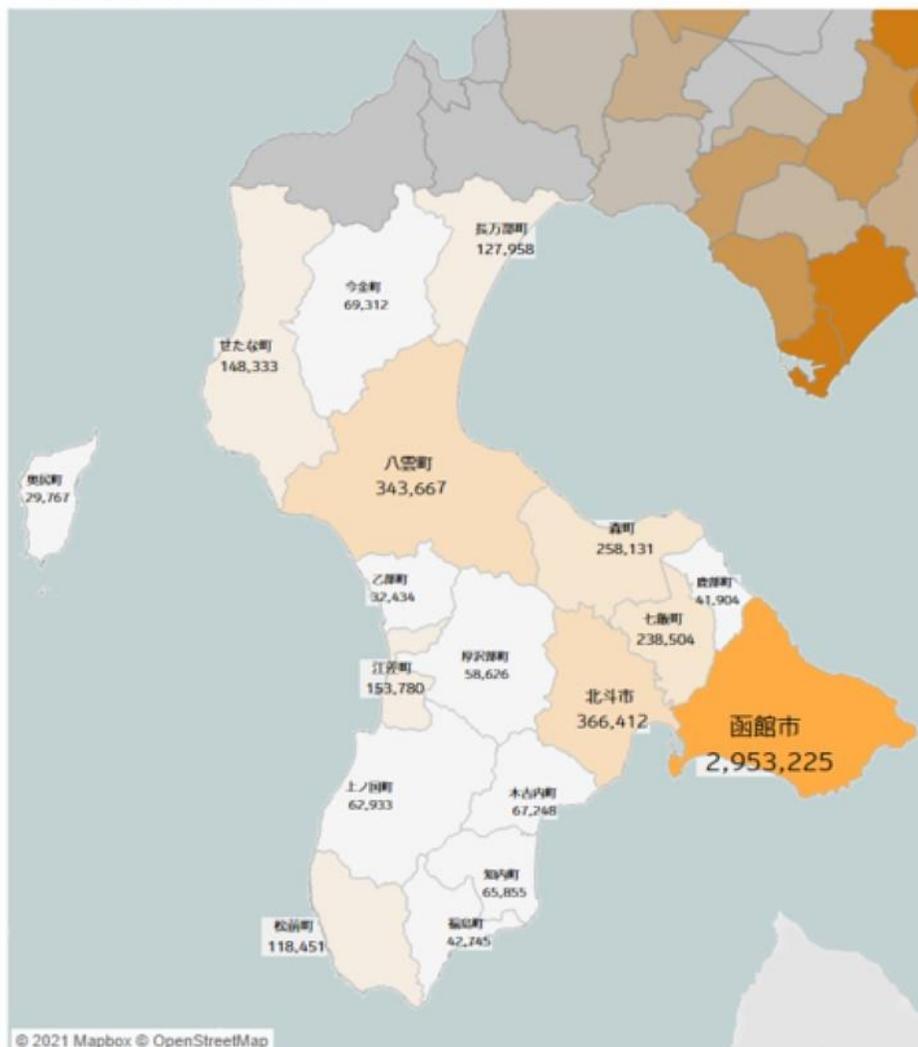


※上位10都府県

## 渡島・檜山エリアの訪問先（居住地別）

- ・道内観光客の訪問先は函館が最も多く、北斗、八雲、森、七飯の順に多い。
- ・道外観光客の訪問先は函館が最も多く、七飯、北斗と続くが、函館以外の訪問者は少ない。

### ●道内観光客の訪問先



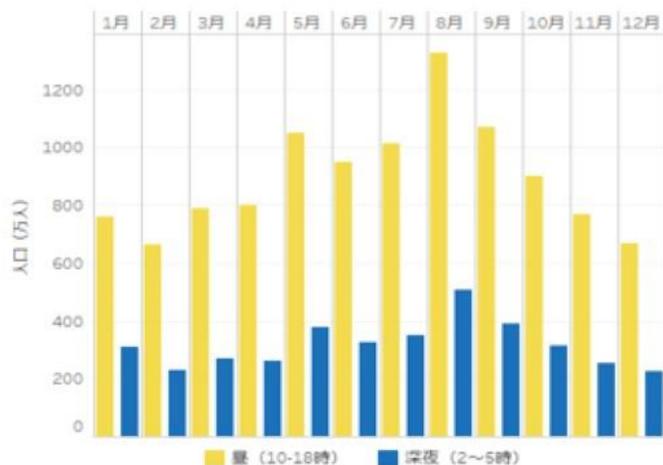
### ●道外観光客の訪問先



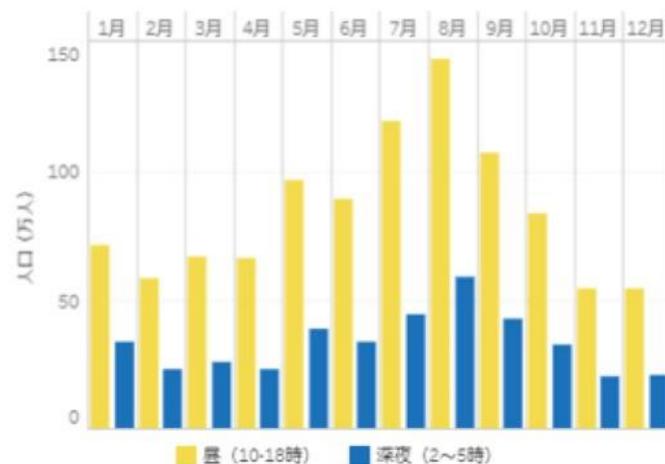
※居住地は市区町村単位で取得しており匿名化の観点から一定サンプル数未満のデータは除外しているため、訪問者なしとなることがある

## エリア間の比較

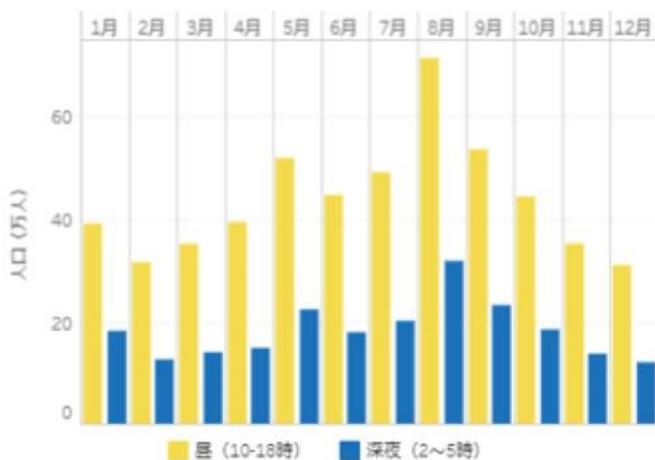
北海道  
全体



上川・留萌  
エリア



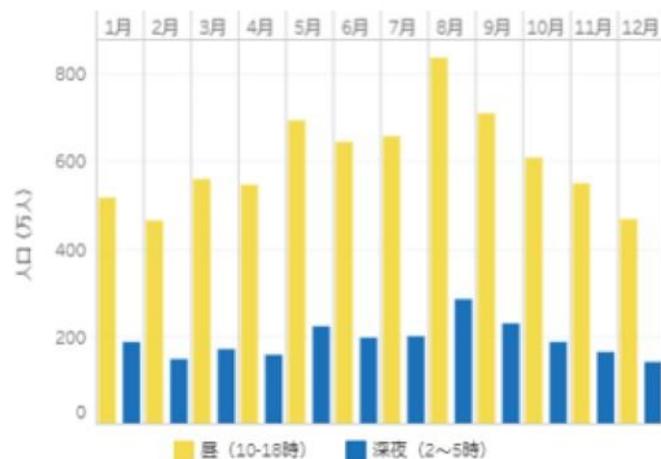
根室・釧路  
エリア



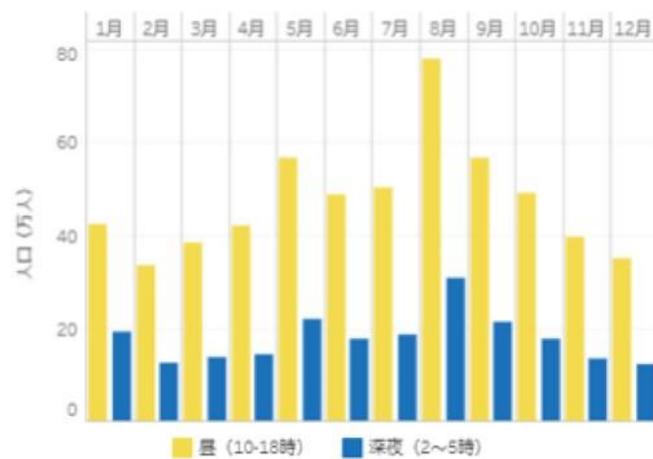
オホーツク  
エリア



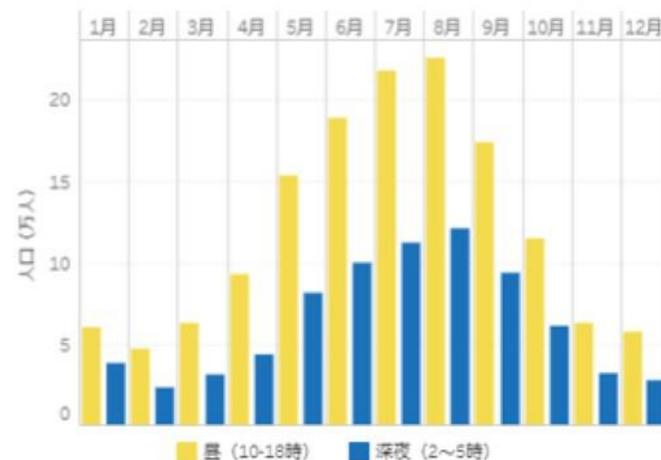
空知・石狩・胆振・日高・後志  
エリア



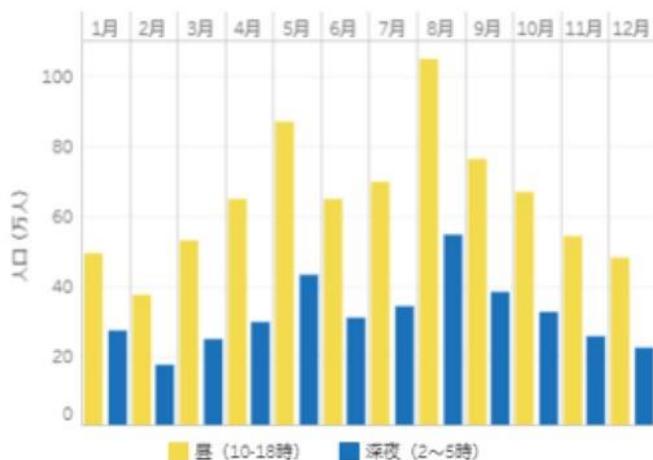
十勝エリア



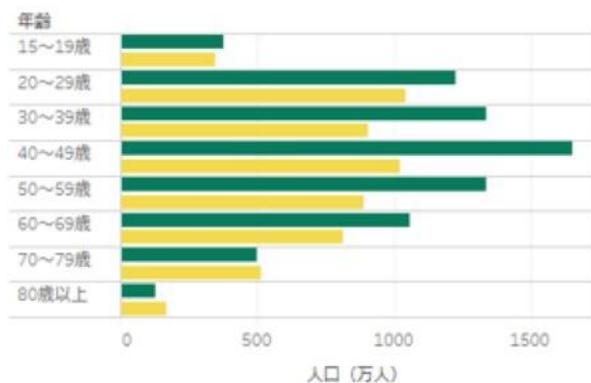
宗谷  
エリア



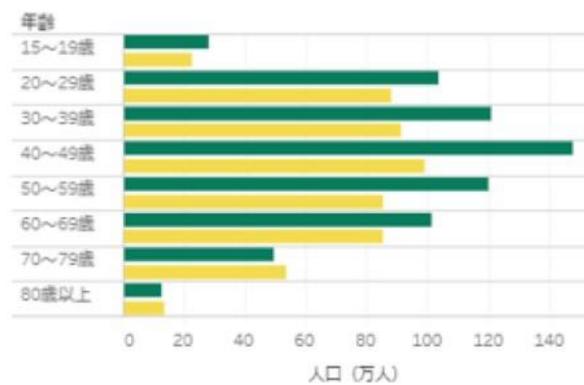
渡島・檜山  
エリア



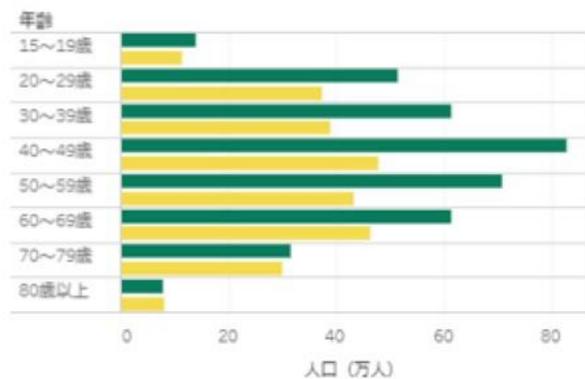
北海道  
全体



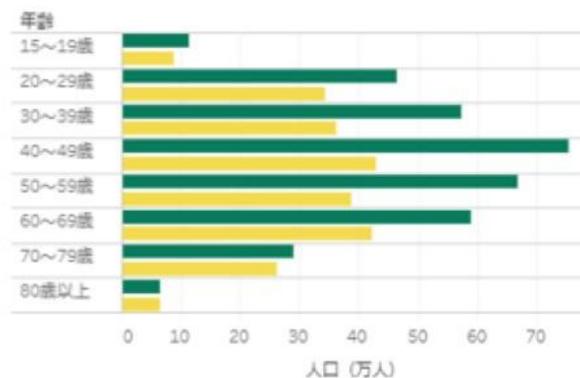
上川・留萌  
エリア



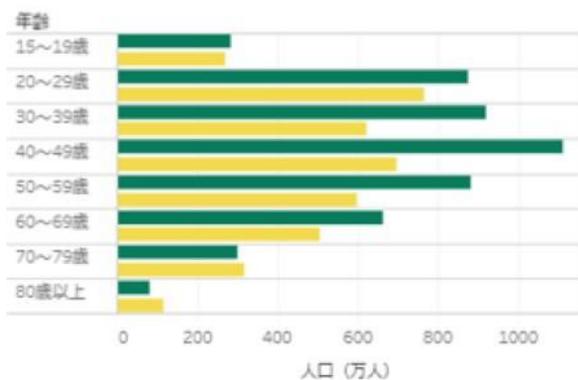
根室・釧路  
エリア



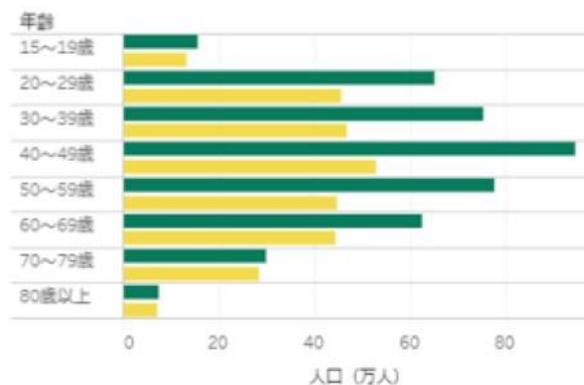
オホーツク  
エリア



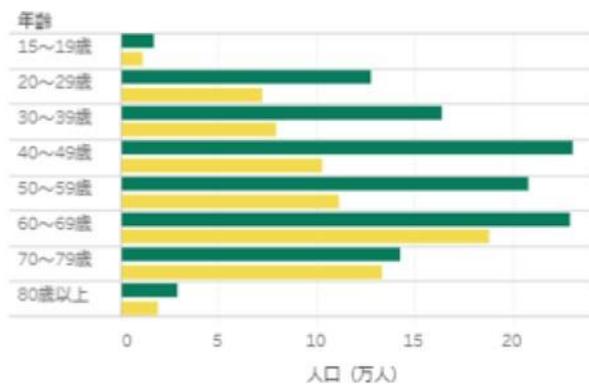
空知・石狩・胆振、日高・後志  
エリア



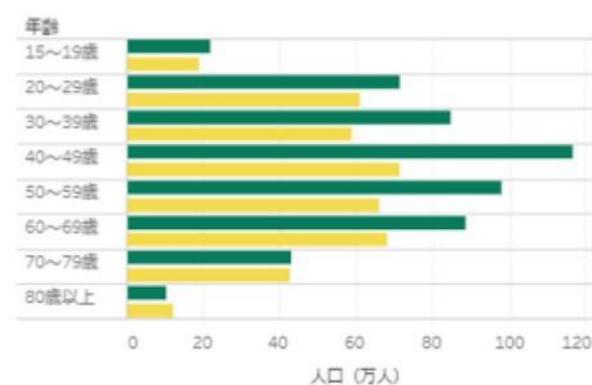
十勝  
エリア



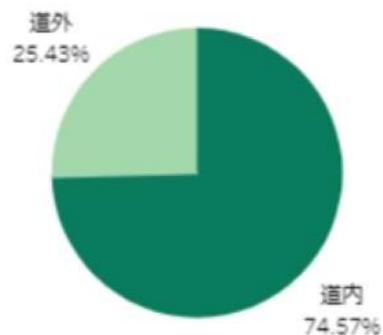
宗谷  
エリア



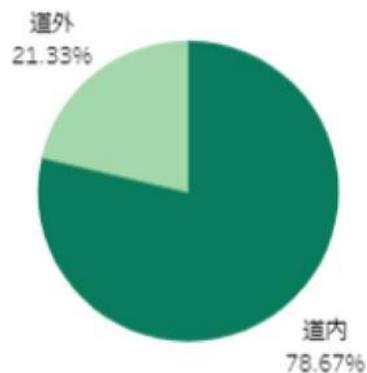
渡島・檜山  
エリア



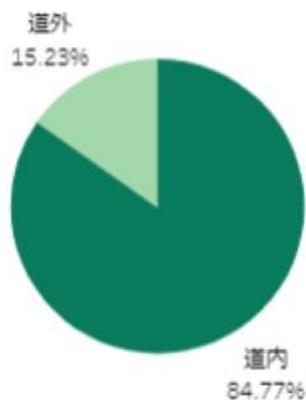
北海道  
全体



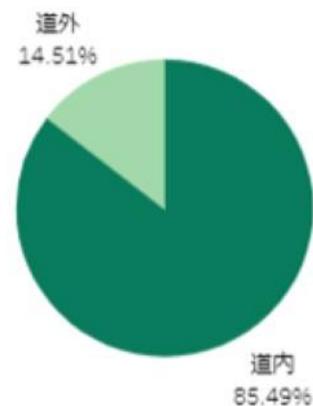
上川・留萌  
エリア



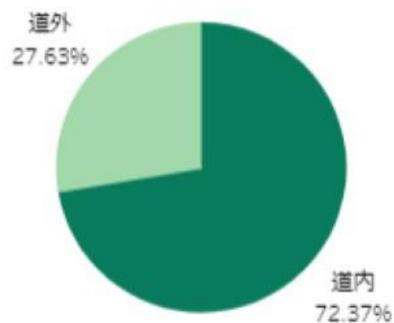
根室・釧路  
エリア



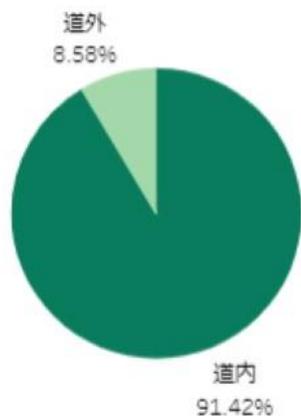
オホーツク  
エリア



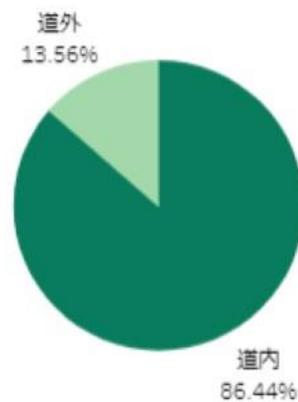
空知・石狩・胆振・日高・後志  
エリア



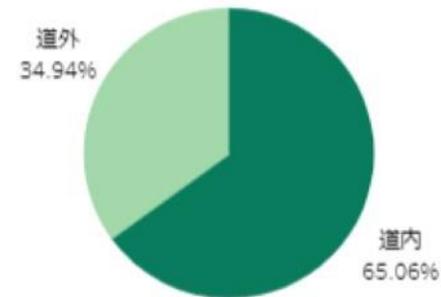
十勝  
エリア



宗谷  
エリア



渡島・檜山  
エリア



道外居住者の都道府県別の割合（上位10都府県）

北海道  
全体

上川・留萌  
エリア

釧路・根室  
エリア

オホーツク  
エリア

都府県	割合(%)
東京都	28.1
神奈川県	13.2
千葉県	7.9
埼玉県	7.4
大阪府	5.8
愛知県	5.5
兵庫県	3.6
宮城県	2.8
青森県	2.4
茨城県	1.9
計	78.6

都府県	割合(%)
東京都	30.8
神奈川県	15.0
千葉県	8.5
埼玉県	7.8
愛知県	5.3
大阪府	4.9
兵庫県	3.8
茨城県	1.7
静岡県	1.6
宮城県	1.6
計	81.0

都府県	割合(%)
東京都	34.7
神奈川県	16.2
千葉県	8.9
埼玉県	7.7
大阪府	5.5
兵庫県	3.6
愛知県	3.0
宮城県	1.9
福岡県	1.5
静岡県	1.2
計	84.2

都府県	割合(%)
東京都	40.3
神奈川県	16.8
千葉県	9.9
埼玉県	7.0
大阪府	3.0
愛知県	3.0
兵庫県	3.0
宮城県	1.3
群馬県	1.2
栃木県	1.2
計	86.7

道外居住者の都道府県別の割合（上位10都府県）

空知・石狩・胆振  
・日高・後志エリア

十勝  
エリア

宗谷  
エリア

渡島・檜山  
エリア

都府県	割合(%)
東京都	27.4
神奈川県	12.8
千葉県	7.8
埼玉県	7.2
大阪府	6.3
愛知県	6.0
兵庫県	3.8
宮城県	2.9
茨城県	2.0
静岡県	1.8
計	78.0

都府県	割合(%)
東京都	42.4
神奈川県	17.1
千葉県	10.2
埼玉県	7.6
大阪府	3.5
宮城県	2.5
愛知県	2.5
兵庫県	2.2
青森県	1.3
茨城県	1.3
計	90.6

都府県	割合(%)
東京都	37.5
神奈川県	11.8
千葉県	8.0
埼玉県	6.5
愛知県	3.4
栃木県	2.2
兵庫県	2.0
長野県	2.0
福島県	2.0
大阪府	2.0
計	77.4

都府県	割合(%)
東京都	23.6
神奈川県	12.9
青森県	10.7
埼玉県	9.0
千葉県	7.4
宮城県	4.0
愛知県	3.6
大阪府	3.1
岩手県	2.8
秋田県	2.1
計	79.2

## 打ち手の検討

エリア	特徴	観光振興にあたり
上川・留萌エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が12,452,573人（エリア別2位）（P13）</li> <li>道内観光客と比較して、道外観光客の夏季の訪問割合が高い（P9）</li> <li>道内観光客の訪問地別観光人口では、旭川市は札幌市中央区、千歳市に次いで多いが、道外観光客の場合は、さらに函館市、小樽市に次いで5番目となっている（P10）</li> <li>道外観光客の居住地は、関東の1都3県で6割程度を占める（P14）</li> <li>道外観光客のエリア内訪問先が、旭川市から占冠村までの上川中南部に集中している（P15）</li> </ul>	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道外観光客に対する上川エリアの冬期のブランド訴求</li> <li>エリア内周遊を目的として、上川北部のアウトドア体験や留萌エリア（日本海側）の水産資源を活用したコンテンツのブラッシュアップとプロモーション強化</li> <li>旭川市を拠点とした上川北部及び留萌エリアのモデルルート開発と訴求</li> </ul> <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名寄市や留萌市等の滞在拠点整備</li> <li>新千歳や稚内、女満別、帯広空港等とのオープンジョーの商品開発や他地域とのアクセス改善</li> </ul>
釧路・根室エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が6,537,238人（エリア別5位）（P17）</li> <li>道内観光客と比較して、道外観光客の夏季の訪問割合が高い（P9）</li> <li>オホーツクエリア同様、若年層（20・30代）より中高年層（40～60代）の方が多（P17）</li> <li>道内観光客の居住地別では、自エリア居住者が最も多い（P18）※国内観光客の抽出条件を加味すると、実態はより多いことが想定される</li> <li>道外観光客の居住地は、関東の1都3県で7割弱を占める（P18）</li> <li>道外観光客のエリア内訪問先は、釧路市、弟子屈町が多い。近隣エリアでは、斜里町が多い（P19、23）</li> </ul>	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LCC就航を契機としたミレニアル世代に向けたコンテンツの拡充とSNS情報発信</li> <li>道外観光客向けに、十勝やオホーツクエリアとの道東一体となったプロモーション</li> <li>釧路市、弟子屈町、斜里町等を滞在拠点としたアウトドアフィールドにおける体験型観光推進による域内周遊促進</li> </ul> <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>域内周遊を促進する2次交通の整備</li> <li>女満別空港や帯広空港とのオープンジョーによる周遊を可能とする環境整備</li> </ul>

エリア	特徴	観光振興にあたり
オホーツクエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が5,987,268人（<b>エリア別6位</b>）（P21）</li> <li>道内観光客と比較して、<b>道外観光客の夏季の訪問割合が高い</b>（P9）</li> <li>釧路・根室エリア同様、若年層（20・30代）より<b>中高年層（40～60代）の方が多</b>い（P21）</li> <li>道外観光客の居住地は、<b>関東の1都3県で7割強</b>を占める（P22）</li> <li>道内観光客の訪問先が<b>北見市が最も多い</b>のに対し、<b>道外観光客は斜里町が最も多い</b>。また、道外観光客の訪問先は限定的である（P23）</li> </ul>	<p><b>【誘客促進・観光資源開発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>ミレニアル世代</b>に向けたコンテンツの拡充とSNS情報発信</li> <li><b>知床の四季折々の景観・体験コンテンツ</b>の訴求や<b>オホーツク文化</b>の訴求などによる旅行需要の平準化</li> <li><b>道外観光客</b>向けに、十勝やオホーツクエリアとの<b>道東一体</b>となったプロモーション</li> <li>北見市、網走市、斜里町等を滞在拠点とした<b>域内周遊</b>促進</li> </ul> <p><b>【受入環境整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北見市を境とした<b>北西部の周遊</b>を促進する<b>2次交通</b>の整備</li> <li>紋別空港や釧路空港、帯広空港との<b>オープンジョー</b>による<b>周遊</b>を可能とする環境整備</li> </ul>
空知・石狩・胆振 ・日高・後志エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が90,597,784人（<b>エリア別1位</b>）（P25）</li> <li><b>石狩・後志エリア</b>は、他のエリアと比較して<b>季節偏在が見られない</b>一方、<b>空知は夏に集中</b>しているなど、エリア内での違いも見られる（P9）</li> <li><b>道外観光客の比率が函館エリアに次いで2番目に高い</b>（P25）</li> <li><b>20・30代の若年層</b>の割合が他のエリアと比較して高い。また、<b>女性の中では20代女性が一番多い</b>ことも特徴である（P25.P44）</li> <li>就航路線が多いことから首都圏に加え、<b>関西、中部居住者の割合も他のエリアと比較して高い</b>（P47）</li> <li>道外観光客の空知、日高、胆振日本海側への滞在が少ない（P27）</li> </ul>	<p><b>【誘客促進・観光資源開発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>エリアごとのブランディング</b>やコンテンツ整理の実施及び訴求</li> <li><b>ミレニアル世代</b>に向けたSNS情報発信や女子旅を意識したトレンドコンテンツの訴求</li> <li>関西や中部ほか<b>首都圏以外の就航地からの誘客促進</b></li> <li><b>空知、日高、胆振日本海側へのモデルコース</b>の開発、訴求</li> </ul> <p><b>【受入環境整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客の道央集中解消のため、<b>新千歳以外の他空港へのオープンジョー</b>の利用拡大における周遊拡大を図る</li> </ul>

エリア	特徴	観光振興にあたり
十勝エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が7,258,077人（エリア別4位）（P29）</li> <li>道内観光客と比較して、道外観光客の夏季の訪問割合が高い（P9）</li> <li>他エリアと比較して、道内観光客の割合が最も高く、9割超を占める（P29）</li> <li>近隣の釧路・根室エリアやオホーツクエリアと比較して、20～30代の割合が高い（P43.44）</li> <li>道内観光客の居住地は、自エリア居住者が最も多い（P30）※国内観光客の抽出条件を加味すると、実態はより多いことが想定される</li> <li>道外観光客の居住地は、関東の1都3県で8割弱を占める（P30）</li> <li>道外観光客は、帯広を中心とした十勝中部以外あまり訪問されていない（P31）</li> </ul>	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋の農産資源の収穫期や冬期のコンテンツやアクティビティの訴求による旅行需要の平準化</li> <li>道外観光客ミレニアル層に、釧路・根室やオホーツクエリアとの道東一体となったプロモーションによる若年層の取り込みを図る</li> <li>帯広中心部や十勝川温泉を滞在拠点とした十勝北東部や南部への周遊コースの訴求</li> </ul> <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道外観光客の取り込みのため、新千歳空港からのアクセス強化や富良野・美瑛などとの連携促進</li> <li>新千歳空港や釧路空港、女満別空港とのオープンジョーによる周遊を可能とする環境整備</li> </ul>
宗谷エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が1,933,846人（エリア別7位）（P33）</li> <li>道外観光客の夏の訪問が顕著に多い一方、冬の訪問は極端に少ない（P9）</li> <li>道内観光客の比率が86.44%と十勝エリアに次いで、2番目に高い（P44）</li> <li>20～50代女性の来訪が少なく、男女とも60・70代の来訪が比較的多い（P33）</li> <li>道外観光客の居住地は、関東の1都3県で6割程度を占める（P34）</li> <li>道外観光客の訪問先は、稚内市及び利尻礼文に限られている（P35）</li> </ul>	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冬期当エリアにおけるブランディングの強化</li> <li>女性向けコンテンツの拡充とプロモーション強化</li> <li>ミレニアル世代の需要を喚起するSNS情報発信やキャンペーンの実施</li> <li>離島観光の促進や水産資源や国立公園の自然を活用したコンテンツの拡充</li> <li>稚内－旭川間のモデルコースの開発・訴求</li> </ul> <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊富温泉ほか上川・オホーツク間における滞在拠点の整備</li> <li>新千歳－稚内間の航空機利用促進や、旭川空港とのオープンジョーによる周遊を可能とする環境整備</li> </ul>

エリア	特徴	観光振興にあたり
渡島・檜山エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ観光人口が9,493,997人（<b>エリア別3位</b>）（P37）</li> <li>他エリアほど道外観光客の<b>季節偏在は見られない</b>（P9）</li> <li><b>道外観光客の比率が34.94%</b>と他のエリアと比較して最も高い（P37）</li> <li>道外観光客の内訳では、<b>1都3県からが約半数</b>を占めるが、青森県を筆頭に宮城県、岩手県、秋田県など<b>東北地方居住者が来訪</b>していることも他エリアとは違った特徴である（P38）</li> <li><b>道外観光客の訪問先は、函館市近辺</b>に集中している（P39）</li> </ul>	<p><b>【誘客促進・観光資源開発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>函館ー道央エリア間のコンテンツ拡充</b></li> <li><b>日本海側への周遊</b>を促進するためのコンテンツの開発と訴求</li> <li><b>東北北部との広域連携</b>によるプロモーション</li> </ul> <p><b>【受入環境整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>新幹線やフェリー</b>利用の促進による<b>東北からの誘客</b>拡大</li> <li><b>新千歳空港とのオープンジョー</b>による周遊を可能とする環境整備</li> <li><b>函館市以外の滞在拠点整備</b></li> </ul>